

Xerox FreeFlow Core 7.0.11 リリースガイド

(2024/12 作成)

このドキュメントでは、Xerox FreeFlow Core について、次の項目を説明します。

- (1) 新規インストールする際における注意事項
- (2) アップグレードする際における注意事項
- (3) Microsoft Office変換機能を使用する際における注意事項
- (4) FreeFlow Core 7.0.11までに解除された注意・制限事項
- (5) FreeFlow Core 7.0.11における注意・制限事項
- (6) 補足情報

1. 新規インストールする際における注意事項

実施における注意事項

FreeFlow Coreをインストールする前の設定として、Microsoft SQL Serverのインストールなどが必要となります。インストールガイドの「システムインストール準備」を参照して実施してください。

2. アップグレードする際における注意事項

アップグレード前の注意事項

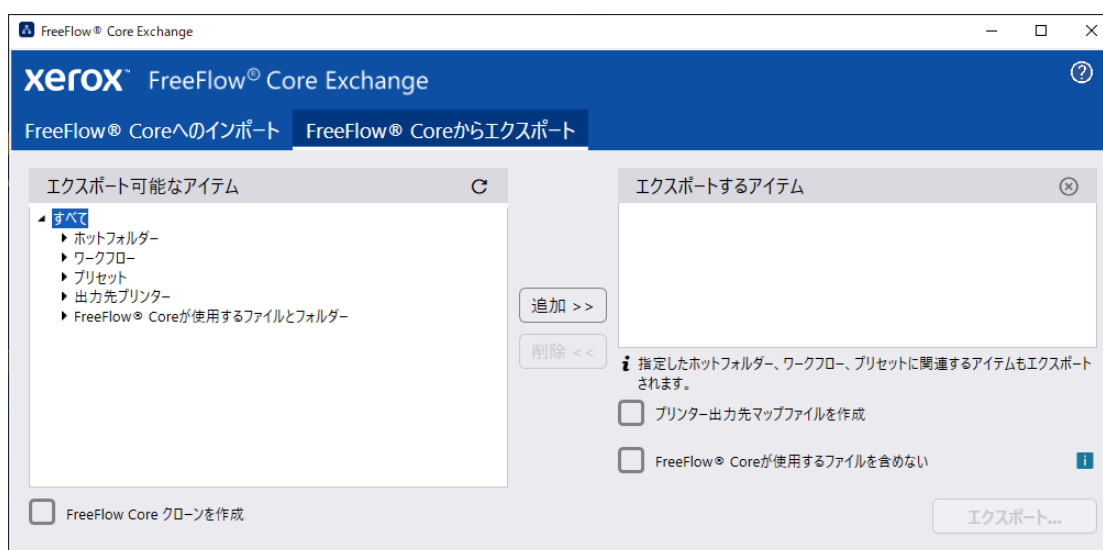
FreeFlow Core7.0.11以降へアップグレードする前に、以下の手順で設定のバックアップを取得しておくことを推奨します。

Core Exchangeによるインポート・エクスポート機能に関して、複数の注意・制限事項があります。詳細は「[5. FreeFlow Core 7.0.11における注意・制限事項](#)」に記載の[インポート・エクスポートに関する注意・制限事項]の節を参照してください。

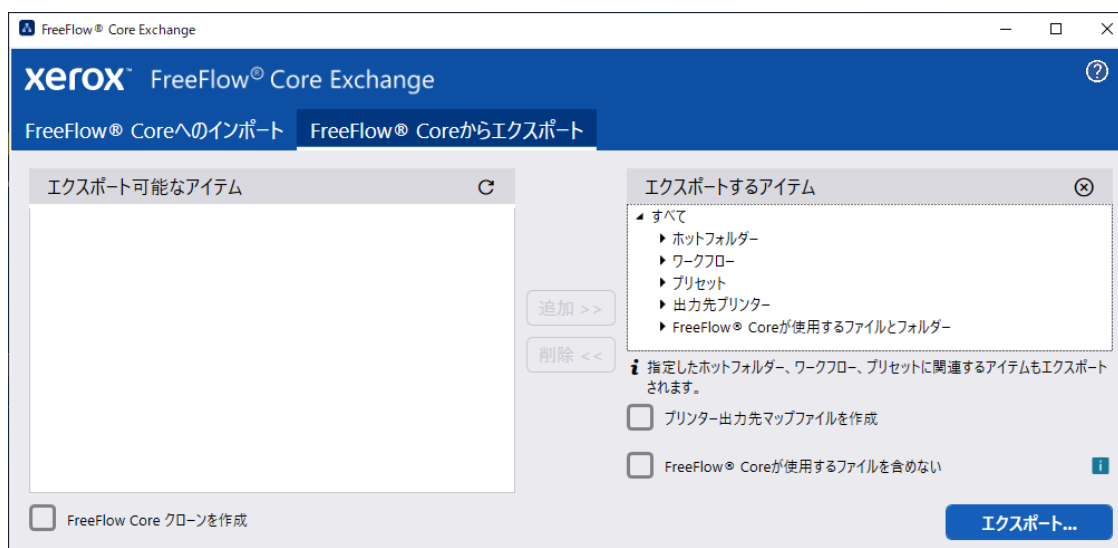
設定のバックアップ手順

1. コンピューターの管理者(Administrator)の権限で、PC にログオンします。
2. Core Exchange を起動します。
3. "FreeFlow Coreからエクスポート" タブをクリックします。

4. “エクスポート可能なアイテム”で”すべて”を選択し、"追加 >>"をクリックします。



5. “エクスポート...”ボタンをクリックします。



6. 任意の名前でバックアップファイルを保存します。
7. Core Exchange を終了します。

FreeFlow Core 4.0.3.4 以前からのアップグレード手順

FreeFlow Core 4.0.3.4以前から FreeFlow Core 6.0以降へアップグレードする際には、あらかじめ FreeFlow Core 5.1へのアップデートインストールが必要です。

詳細は、FreeFlow Core 5.1に同梱しているFreeFlow Coreインストールガイドの5章「FreeFlow Coreのアップデート」に記載の手順を参照してください。

FreeFlow Core 5.4.5 以前からのアップグレード手順

FreeFlow Core 5.4.5以前から FreeFlow Core 6.0以降へアップグレードする際には、あらかじめFreeFlow

Core 6.0.0へのアップデートインストールが必要です。

詳細は、FreeFlow Core 6.0.0に同梱しているFreeFlow Coreインストールガイドの5章「FreeFlow Coreのアップデート」に記載の手順を参照してください。

実施における注意事項

FreeFlow Coreをインストールする前の設定として、Microsoft SQL Server のインストールなどが必要となる場合があります。インストールガイドの「必要な他社製ソフトウェア商品」を参照し、必要に応じてインストールガイドの「システムインストール準備」を参照して実施してください。

3. Microsoft Office 変換機能を使用する際における注意事項

実施における注意事項

FreeFlow Coreを設置後に、Microsoft Officeドキュメント(Word、Excel、PowerPoint)のジョブ処理がすべて失敗することがあります。その場合は、以下の確認を行なってください。

- Microsoft Office変換設定

FreeFlow Coreインストールガイドの3章「必要に応じて行う設定」の「Windows共有フォルダーおよびMicrosoft Office変換設定」に沿って適切に設定されているか確認してください。

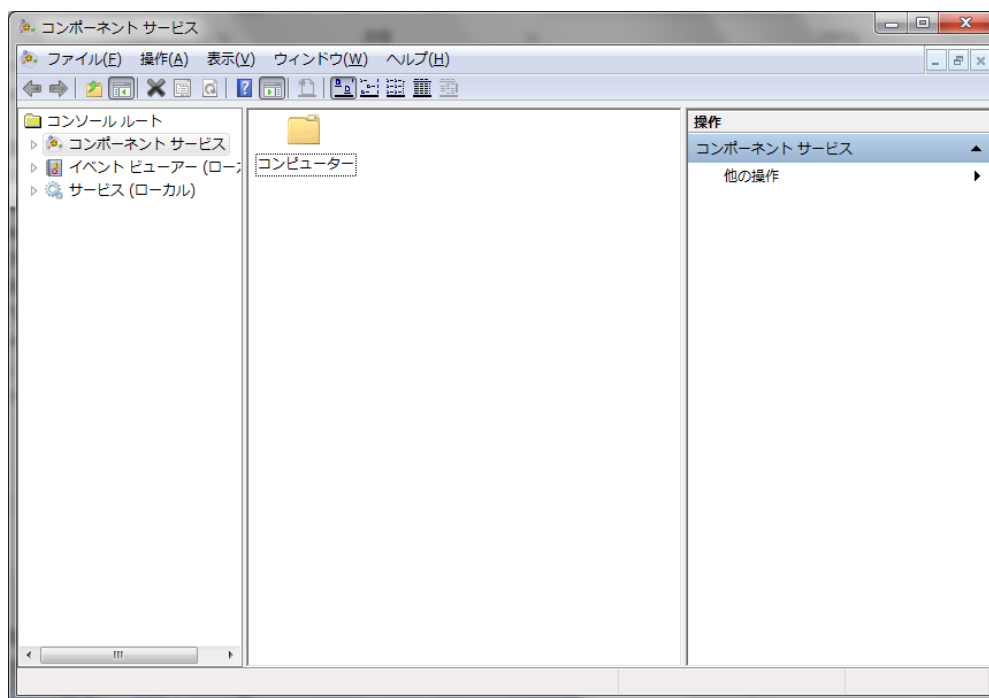
- アクティベーションおよび使用許諾契約の完了

Officeアプリケーションのアクティベーションおよび使用許諾契約が完了しているか確認してください。

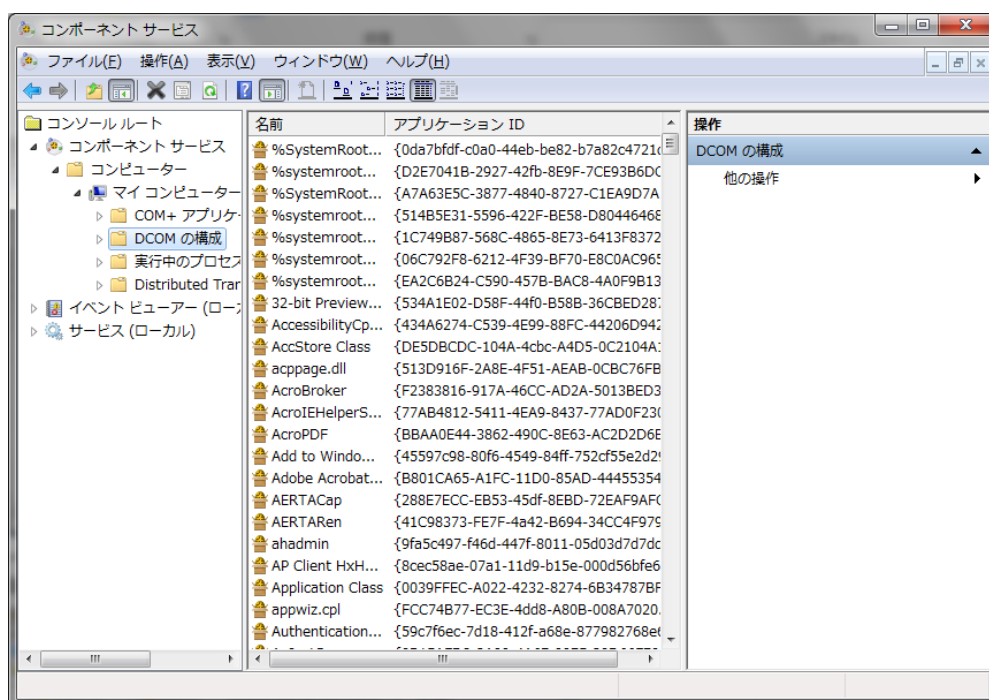
- DCOM設定

FreeFlow CoreとOfficeアプリケーションとの通信を行なうDCOMが適切に設定されているか、次の手順で確認してください。

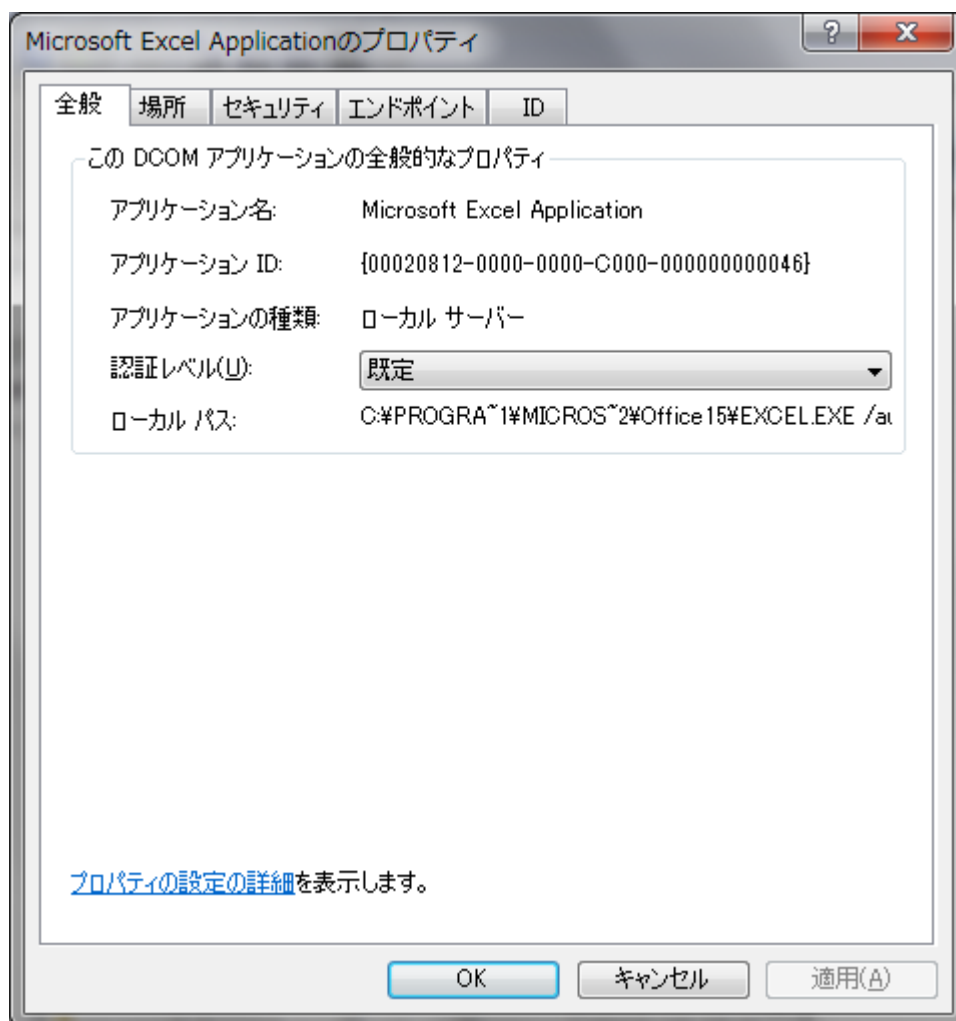
1. FreeFlow Coreを設置した管理者ユーザーで、FreeFlow Coreサーバーへログオンします。
2. [スタート]メニューから「ファイル名を指定して実行」を選択し、ダイアログに次のコマンドを入力して[OK]ボタンを押下します。
“DCOMCNFG” または “mmc comexp.msc /32”
⇒コンポーネントサービスが起動します。



3. 左ペインのメニューから、[コンポーネント サービス] > [コンピューター] > [マイ コンピューター] > [DCOM の構成]を開きます



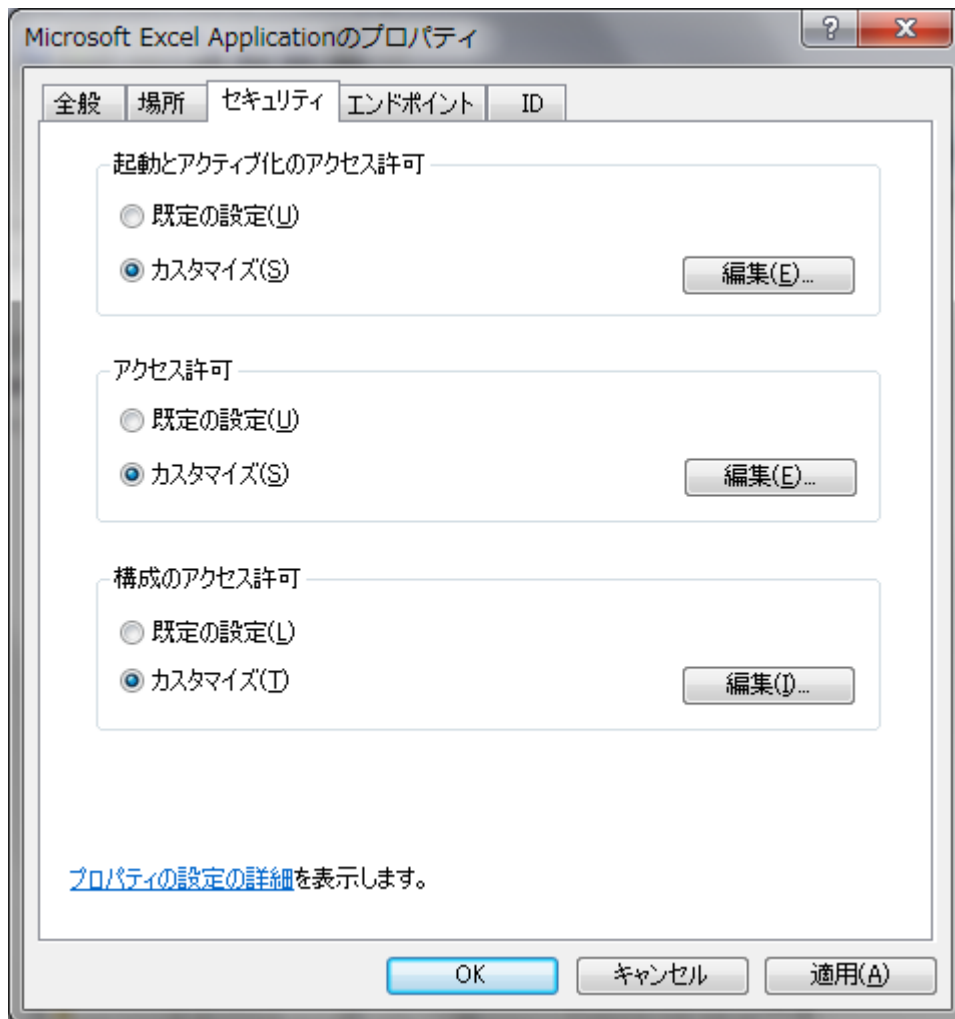
4. Microsoft Excelに対応するDCOM名「Microsoft Excel Application」を左ペインから探して、該当するDCOMのコンテキストメニューから[プロパティ]を選択します。「Microsoft Excel Application」が見つからない場合はアプリケーションID [00020812-0000-0000-C000-000000000046]を選択してください。
⇒[DCOMのプロパティ]ダイアログが開きます。



5. [セキュリティ]タブを開き、設定が次のとおりであることを確認します。設定が異なる場合は、設定を変更してください。

起動とアクティブ化のアクセス許可: カスタマイズ

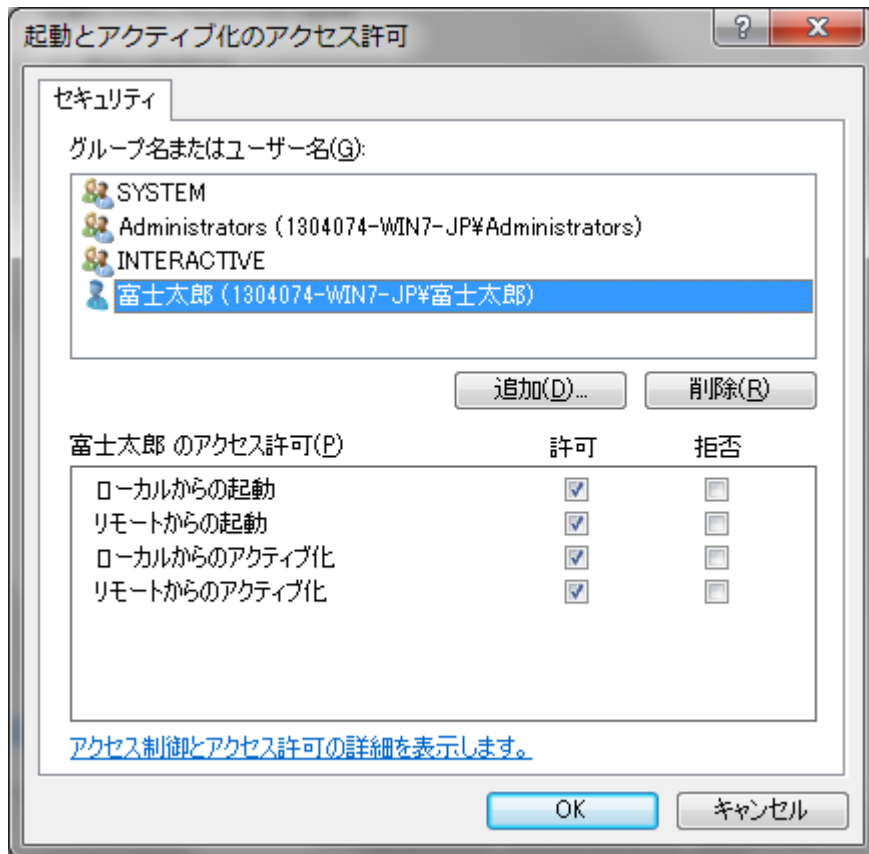
アクセス許可: カスタマイズ



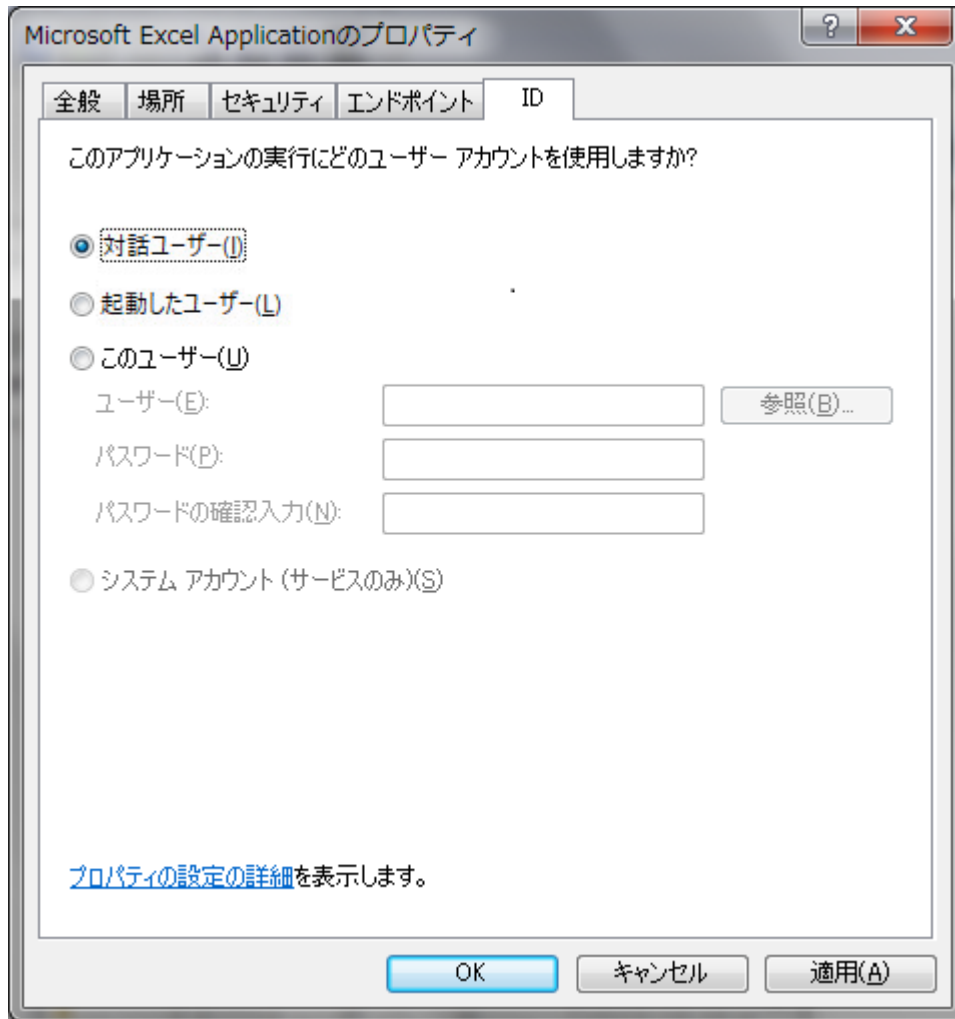
6. [起動とアクティブ化のアクセス許可]の[編集]ボタンを押下して、[起動とアクティブ化のアクセス許可]ダイアログを開き、設定が次のとおりであることを確認します。設定が異なる場合は、設定を変更してください。

グループ名またはユーザー名: FreeFlow Coreサービス起動ユーザー

アクセス許可: すべて[許可]にチェック



7. [起動とアクティブ化のアクセス許可]ダイアログを閉じます。
8. [アクセス許可]の[編集]ボタンを押下して、[アクセス許可]ダイアログを開き、設定が次の通りであることを確認します。設定が異なる場合は、設定を変更してください。
 グループ名またはユーザー名: **FreeFlow Coreサービス起動ユーザー**
 アクセス許可: すべて[許可]にチェック
9. [アクセス許可]ダイアログを閉じます。
10. [ID]タブを開き、設定が次のとおりであることを確認します。設定が異なる場合は、設定を変更してください。
 どのユーザーアカウントを使用しますか: 対話ユーザー



11. [DCOMのプロパティ]ダイアログを閉じます。

- システムフォルダーの確認

Microsoft Excelアプリケーションが使用する以下のフォルダーが存在することを確認してください。ない場合は作成してください。

32ビット(x86)アプリケーション:

C:\¥Windows¥System32¥config¥systemprofile¥Desktop

64ビット(x64)アプリケーション:

C:\¥Windows¥SysWOW64¥config¥systemprofile¥Desktop

※ 64ビットアプリケーションをご使用の場合は32ビットのフォルダーも同様に設定してください。

注記:

Windows 10より前のOSでは、ユーザー名に2byte文字を含むユーザーでログインして上記DCOM設定を実施しても、Officeドキュメントのジョブ処理が失敗する場合があります。その場合は、ユーザー名に2byte文字を含まないユーザーでログインし直してから、DCOM設定を再実施してください。

- デフォルトプリンターの設定

権限が制限されているユーザーで操作している場合は、以下の手順でXPSを通常使うプリンターに設定してください。管理者権限を持つアカウントの場合は必要ありません。

1. [スタート]メニューから[設定]をクリック、Windowsの設定で[デバイス]をクリックします。
2. 左ペインで[プリンターとスキャナー]をクリックし、右ペインより「Microsoft XPS Document Writer」をクリックして[管理]ボタンをクリックします。
3. デバイスの管理で[既定として設定する]をクリックします。
4. 右上の[×]をクリックしてウィンドウを閉じます。

4. FreeFlow Core 7.0.11 までに解除された注意・制限事項

FreeFlow Core 7.0.0 で解除された注意・制限事項

- 異なる言語の OS からのインポートはサポート外

FreeFlow Core では、異なる言語の OS からのインポートはサポートしていませんでしたが、修正されました。

FreeFlow Core 7.0.1 で解除された注意・制限事項

- 676 字以上を含む Aztec バーコードが、バーコードリーダーで読み取れない

Aztec バーコードで 676 字以上を入力すると、出力されたバーコードはバーコードリーダーで読み取れませんでした。修正されました。

- キュー管理が無効の状態でもジョブのプロパティ画面に[カラーコンテンツ]欄が表示される

本来はキュー管理が有効の状態でのみ表示されるはずの[カラーコンテンツ]欄が、キュー管理が無効の状態でも空欄で表示されていましたが、修正されました。

FreeFlow Core 7.0.2 で解除された注意・制限事項

- MAX 設定で[標準フィールド]と同じ名前の[カスタムフィールド]が作成できてしまう

Xerox FreeFlow Core 7.0.1 ではホットフォルダーの MAX 設定で[標準フィールド]と同じ名前の[カスタムフィールド]が作成できてしまいましたが、修正されました。

- **バーコードの[追加の値を選択]リストの値が省略されて見えない**

バーコード編集画面でデータタブの[追加の値を選択]のリストを開くと、値の後ろが省略されて見えませんが、修正されました。

- **バーコード編集画面で、ページ範囲を入力しても[テーブルに追加]ボタンが有効にならず追加できない**

Xerox FreeFlow Core 7.0.1 のバーコード編集画面で、[配置]タブで[ページ選択]に「ページ範囲」を選択した後、[ページ範囲]欄に値を入力しても[テーブルに追加]ボタンが有効にならず、バーコードを追加できないことがありましたが修正されました。

FreeFlow Core 7.0.3 で解除された注意・制限事項

- **グループジョブ名が異常になる**

ジョブ送信画面でジョブ名を指定し、[集約]-[連結]-[保存]のワークフローに対してジョブを送信すると、ジョブ管理画面での表示は問題ないが保存ジョブ名が異常になる現象がありましたが、修正されました。

- **面付けコンポーネントで [可能な場合 90° 回転させた行または列を追加する]オプションが有効なときに期待通りの結果にならないことがある**

面付けコンポーネントの[行数、列数]で「行数、列数を自動選択」を選択したときに指定できる[可能な場合 90° 回転させた行または列を追加する]オプションを有効にしたとき、期待通りの結果にならないことがありましたが、修正されました。

- **Xerox FreeFlow Core 7.0 で同梱の EasyStarts がインストールできない**

Xerox FreeFlow Core 7.0 では、同梱の EasyStarts がインストールできませんでしたが、修正されました。

本パッチに同梱している FFCoreJ_70_EasyStarts_Rev_2.zip をご利用ください。

- **Mac OS + Safari の環境で、集約の編集画面で[曜日]の各曜日にチェックを入れても、チェックを入れた GUI にならない**

Mac OS + Safari の環境で、集約の編集画面で[曜日]の各曜日にチェックを入れても、チェックを入れた GUI になりませんでしたが、修正されました。

FreeFlow Core 7.0.4 で解除された注意・制限事項

- **Xerox FreeFlow Core 7.0 以降、ウォーターマークとして使用するファイルを MAX 変数で指定して新規作成、または編集して保存すると、このウォーターマークプリセットの処理でエラーが発生し、ジョブがエラー終了する**

Xerox FreeFlow Core 7.0 以降で、ウォーターマークとして使用するファイルを MAX 変数で指定して新

規作成、または編集して保存すると、このウォーターマークプリセットの処理でエラーが発生し、ジョブがエラー終了していましたが、修正されました。

FreeFlow Core 7.0.7 で解除された注意・制限事項

- **MAX 変数をホットフォルダーのジョブ名に使用していると正しく設定されない**
カスタムフィールドの MAX 変数をホットフォルダーの MAX 設定の[ジョブ名]に使用しているとジョブ名が異常になりましたが、修正されました。

FreeFlow Core 7.0.11 までに解除された注意・制限事項

- **登録済みの出力先プリンターを編集するとき、リストから別のプリンターを選択しても名前やIPアドレスなどが変更されない**
Xerox FreeFlow Core 6.2.3から7.0.7で登録済みの出力先プリンターを編集する際、[プリンター]のドロップダウンリストから他のプリンターを選択しても、[プリンター名]や[DNS 名または IP アドレス(必須)]、[キュー名]は変更されませんでした。修正されました。
- **脆弱性(CVE-2024-47555～47559)に対応しました**
Xerox FreeFlow Core において、脆弱性(CVE-2024-47555～47559)*1 が存在することが判明しましたが、修正されました。
*1:NIST(米国国立標準技術研究所)が公開している脆弱性情報

5. FreeFlow Core 7.0.11 における注意・制限事項

ワークフロー・コンポーネントに関する注意・制限事項

- **”サイズが範囲内”もしくは”サイズが範囲外”の指定サイズと同じサイズのときに処理が行われないことがある**
“サイズが範囲内”もしくは“サイズが範囲外”を指定したときに、PDF のサイズが指定サイズの上限、もしくは下限と一致しているとき、処理が適用されない、もしくは適用されてしまうことがあります。これは、PDF の用紙サイズが小数点以下で誤差がある場合に発生することがあります。“サイズが範囲内”もしくは“サイズが範囲外”を使用する際には、指定サイズを適用したい範囲から 2.0 mm 以上ずらしてください。
以下のコンポーネントで“サイズが範囲内”もしくは“サイズが範囲外”が指定可能です。
 - プリフライト

- バーコード
- ウォーターマーク
- プレスマーク
- ページ番号
- 縮小・拡大
- 回転
- ページ挿入
- ページ削除
- 分割
- ルーティング
- 分配
- 印刷

また、プリフライトに関しては、“サイズが範囲内”もしくは“サイズが範囲外”で指定する値は、第一パラメーターセットに最小値、第二パラメーターセットに最大値となるように指定してください。

- **巨大な PDF をプリフライトで処理する場合にプリフライトがエラー終了することがある**

ファイルサイズが 1.0GB を超えるような PDF をプリフライトする場合に、プリフライトが不正にエラーになってしまうことがあります。この場合、PDF を分割の上、分割したそれぞれの PDF をプリフライトしてください。

- **PDF/X-4 のフィックスアップを適用すると PDF/VT 準拠が失われる**

PDF/VT ファイルに対して PDF/X-4 のフィックスアップを適用すると、PDF/VT に準拠していない PDF になります。PDF/VT ファイルに対して PDF/X-4 のフィックスアップを適用しないでください。

- **[プリフライト]のイメージ解像度指定について**

[プリフライト]のフライトチェックでカラー/グレースケールイメージ解像度、またはビットマップイメージ解像度を選択すると、指定値以下と指定値以上の解像度値を指定することができます。指定値以下には最小解像度、指定値以上には最大解像度を指定してください。

- **[プリフライト]/[最適化]は PDF 内に埋め込まれているファイルに対して適用されない**

[プリフライト]や[最適化]コンポーネントによる処理は、PDF 内に埋め込まれているファイルに対しては適用されません。

- **追加される裁ち落とし幅が指定した値と異なる**

[最適化]の[ドキュメントサイズにあわせて裁ち落としを追加]機能で設定した[裁ち落とし間隔:]の値と追加された裁ち落とし幅が異なることがあり、裁ち落としサイズのページサイズのうち、短辺に追加される幅は長辺と短辺の比率によって変動します。

- **[最適化]コンポーネントで 2GB 以上の PDF を[PDF/X-1a]に変換するとエラーになる**

サポート対象外のため、2GB 以上の PDF を[PDF/X-1a]に変換することはできません。また、入力 PDF が 2GB 未満のデータであっても、最適化の内部処理によって、[PDF/X-1a]変換時にファイルサイズが 2GB を超えてジョブ処理がエラー終了する場合があります。ファイルサイズが大きい PDF を PDF/X に変換する場合は、2GB 以上のファイルサイズをサポートしている[PDF/X-4]で変換を実施してください。

- 用紙設定でインチ指定の用紙を設定すると、レイアウト調整もインチ基準になる**
 [面付け]コンポーネントで、用紙設定でインチ指定の用紙を選択すると、レイアウト調整の単位がインチになります。レイアウト調整をミリ単位で設定したい場合は、カスタムサイズ of 用紙の単位をミリに設定し、指定したいインチ指定の用紙と同じサイズに設定して使用してください。
- 行ごとにドブ幅を変更することができない**
 [面付け]コンポーネントのレイアウトで行数もしくは列数を自動選択に指定した場合、行・列ごとにドブ幅を指定することができません。行・列ごとにドブ幅を指定する場合には、レイアウトで行数と列数を指定してください。
- [トンボから仕上がりサイズを設定]で仕上がりサイズが設定されない**
 [面付け]コンポーネントでトンボを追加した PDF を[最適化]の[トンボから仕上がりサイズ]で処理したとき、トンボのサイズで仕上がりサイズが設定されないことがあります。仕上がりサイズを設定したい場合は、Acrobat など でトンボを追加してください。
- カスタムサイズ用紙の[幅]と[高さ]を MAX 変数で指定するとジョブがエラー終了する場合がある**
 [面付け]コンポーネントでカスタムサイズ用紙の[幅]と[高さ]を MAX 変数で指定した際に、[幅]を[高さ]より長く設定したジョブを処理するとエラー終了します。[幅]を[高さ]より長く設定することはできませんので、縦長用紙になるように[幅]と[高さ]を MAX 変数で指定してください。
- 特色が変換されないことがある**
 [カラー調整]で[特色を変換]を指定しているとき、clrt タグを含まないプロファイルで適用された特色はカラー変換対象に含まれません。
- プレビューに表示されない**
 [バーコード]/[ウォーターマーク]/[プレスマーク]/[ページ番号]において、配置で”外向き”に指定してオフセット値が正のときと”内向き”に指定してオフセット値が負のときはプレビュー画面で配置を確認することはできません。
- MAX 設定の”タイプ”が”数値”の場合、[ジョブ処理条件]に”含む”を指定できない**
 [ルーティング]や[ホットフォルダー]の[出力先ワークフロー]の選択に使用される[ジョブ処理条件]において、属性に MAX 設定の”タイプ”が”数値”の場合、[ジョブ処理条件]で使用できる条件が変更されます。それに伴い、”タイプ”が”テキスト”の MAX 設定を[ジョブ処理条件]の属性に指定したのちに、”タイプ”を”数値”に変更すると、[ジョブ処理条件]の条件が”等しい”に変更されます。また、FreeFlow Core 4.0.2.0 より前のバージョンの FreeFlow Core で[ジョブ処理条件]として MAX - 部数を使用していた場合も、本バージョンでは条件が”等しい”に変更されます。
- [集約]で時刻指定の時刻を編集するスピナーが操作できない**
 [集約]で”時刻指定”を指定するときに、時刻の編集を行うスピナーがグレイアウトして操作できないことがあります。スピナーで編集したい場合は、時刻のテキストボックスを指定してください。
- [外部]コンポーネントを含むワークフローでジョブが完了しないことがある**
 [外部]コンポーネントで指定したスクリプトが終了コードを返さない場合に、ジョブが処理中のまま完了しない

いことがあります。[外部]コンポーネントを含むワークフローでジョブが処理中のまま完了しないときは、Windows タスクマネージャーを開き、指定したスクリプトのプロセスが処理中でないことを確認し、プロセスの終了を行ってください。なお、このときジョブはエラー終了します。

- **[外部]コンポーネントで[ジョブをまとめる]オプションが機能しない**

[外部]コンポーネントで[ジョブをまとめる]オプションはご利用になれません。

- **デフォルトジョブチケットにおける[フィニッシング向き]について**

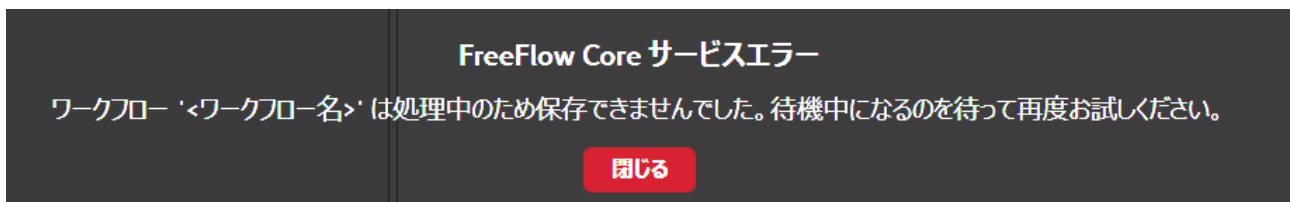
[印刷]の[デフォルトジョブチケットを設定]で[フィニッシング向き:]に[よこ]を選択しても、プリンター側で確認する用紙の向きは[よこ]になりません。フィニッシング向き[よこ]を選択した場合、用紙の向きには影響なく、[フィニッシング:]で指定したフィニッシングの位置が左 90 度回転します。

- **[保存]コンポーネントで保存するファイルは上書き保存される**

[保存]コンポーネントで保存するファイルは、指定したファイル名で上書き保存されます。

- **ジョブ処理中はワークフローを変更できない**

ジョブを処理中のワークフローは、ワークフロー設定で編集を完了することができません。ワークフローでジョブを処理中の場合、以下のエラーダイアログが表示されます。



- **[外部]コンポーネントでジョブが処理待ちのままになることがある**

[外部]コンポーネントで処理中のジョブ (外部プロセスからの入力待ちのジョブ) を FreeFlow Core で削除すると、以降の処理待ちのジョブの処理がすぐに開始されないことがあります。

処理待ちのジョブの処理が開始されない場合は、タイムアウト時間が経過するまで待つか、あるいは FreeFlow Core サーバーを再起動してください。再起動した場合は[外部]コンポーネントで処理待ちのジョブがすべて失敗で完了します。

- **[集約]コンポーネントに[ジョブをまとめる]オプションを指定すると、集約条件を無視してジョブをまとめる**

集約条件を指定した[集約]コンポーネントに[ジョブをまとめる]オプションを指定すると、集約条件を無視してジョブをまとめます。[集約]コンポーネントに指定した集約条件に従ってジョブをまとめたい場合は、集約条件を指定した[集約]コンポーネントと、[ジョブをまとめる]オプションを指定した[集約]コンポーネントを、前後に続けて指定してください。

- **一つのワークフローに配置可能なノード数は 256 である**

一つのワークフローに配置可能なノード数は 256 個までです。FreeFlow Core 4.0.1.0 より前に作成された 256 個より多くのノードを含むワークフローについては、アップグレードおよびインポートは可能ですが、動作は保証できません。

- **MAX 設定で"workflow"というカスタムフィールドは利用できない**

MAX 設定で"workflow"というカスタムフィールドを作成して利用することはできません。"workflow"は予約語のため、他の文字列に置き換えてください。

- **[ジョブをまとめる]オプションを有効にした集約コンポーネントでジョブを処理するとサーバーエラーが発生することがある**

[ジョブをまとめる]オプションを有効にした集約コンポーネントでジョブを処理するとサーバーエラーが発生することがあります。

この場合、Visual Studio 2012 の Visual C++再頒布可能パッケージのインストールが必要です。

Microsoft 公式ホームページの「ダウンロード センター」の「開発者ツール」から「Visual Studio 2012 更新プログラム 4 の Visual C++ 再頒布可能パッケージ」をダウンロードして、インストールしてください。

- **[集約]コンポーネントで[ジョブをまとめる]オプションを有効にしても処理順序が保持されない**

Output Management オプションが有効な環境で、[集約]コンポーネントの[ジョブをまとめる]オプションを有効にしても、グループジョブを構成するサブジョブの処理順序は保証されません。

- **[ウォーターマーク]コンポーネントで指定した変数の動作が異なる**

テキストで変数「\$FFwfJob.joinedJobNames.range(1,3).join(,)\$」を指定した場合、3 つのサブジョブ (test1.pdf/test2.pdf/test3.pdf)を連結すると、FreeFlow Core 5.4.2 まではエラージョブとなっていました。FreeFlow Core 5.4.3 以降はエラージョブとならずテキスト「test2,test3」が挿入されます。

これは仕様変更によるもので、サブジョブ数が範囲を満たしていなくてもジョブは正常終了するように動作が変更されました。

- **スクリプトから呼び出す外部プログラムはフルパスで定義する**

ホットフォルダーやワークフローに設定したスクリプトでは、外部プログラムはフルパスで定義してください。システム・ユーザー環境変数の path は FreeFlow Core からは参照されませんのでご注意ください。

例えば以下のようなスクリプトの場合、ジョブがエラーになることがあります。

```
powershell -File <ファイルパス> <引数>
```

この場合、以下のように外部アプリを絶対パスで定義してください。

```
C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe -File <ファイルパス> <引数>
```

- **FreeFlow Core 6.1.0 以降、FreeFlow Core で用意されている面付けプリセットの名前が英語表記**

FreeFlow Core 6.1.0 以降を新規インストールすると、あらかじめ用意されている面付けプリセットの名前がすべて英語表記になります。従来日本語名があったプリセットについても、新規インストールを行うと英語表記になります。

従来から用意されていたものを含めた、面付けプリセットの一覧は以下の通りです。

英語名 (FFC 6.1.0 以降)	日本語名 (FFC 6.0.2 まで)
16 Up	16 連プリント
2 Up	2 連プリント
2 Up Flip Left	反転 2 連プリント左
2 Up Flip Right	反転 2 連プリント右

2 Up Signature Book	2 連シグネチャー (ブックレット)
3 Fold Booklet	(※)
3 Up	3 連プリント
3 Up Flip Left	反転 3 連プリント左
3 Up Flip Right	反転 3 連プリント右
4 Up	4 連プリント
8 Up	8 連プリント
Cross Fold Booklet	(※)
Eighth Fold	(※)
Formal Greeting Card	(※)
Half Fold	(※)
Maximum N-Up	N 連プリント (最大)
Quater Fold	(※)
Quarto	4 面付け
Reverse Sheet Order - Duplex	(※)
Reverse Sheet Order - Simplex	(※)
Signature - Book	小冊子 (中とじ)
Signature - Calender	小冊子 (カレンダー)
Signature - Pamphlet	小冊子 (パンフレット)
Standard	面付け設定

(※) FreeFlow Core 6.1.0 の新規追加プリセットのため、日本語名無し。新規追加プリセットの機能説明については、後述の「エラー! 参照元が見つかりません。 エラー! 参照元が見つかりません。」の面付けプリセットの説明を参照のこと。

- **[ウォーターマーク]コンポーネントでタイムスタンプの午前/午後表記が表示されない**

[ウォーターマーク]コンポーネントでタイムスタンプ変数\$FFtimeStamp\$を指定する場合、時間の表示形式に午前/午後表記を指定すると、OS の言語に合わせて午前/午後の文字を表示できるフォントを選択してください。午前/午後の文字を表示できるフォントが選択されていない場合は、午前/午後表記は表示されません。

- **\$FFtimeStamp.Format()\$の第 5 引数「num」が無効のときがある**

[ウォーターマーク]コンポーネントでタイムスタンプ変数\$FFtimeStamp\$を指定する場合、タイムスタンプ変数\$FFtimeStamp.Format()\$の第 5 引数で時間表記に 0 を付与しないようにする値「num」を設定しても、第 6 引数で 24 時間表記を指定する値が「false」を設定している場合は、時間は 2 ケタ表記となります。

- **両面の面付け処理でトンボを付与するとき、オフセットの値によってはトンボが切れることがある**

[面付け]コンポーネントで両面、トンボを設定しているとき、「よこオフセット」で 0 以外を設定すると、値によってはうら面のトンボが切れてしまいますのでご注意ください。

- **FreeFlow Core 6.0 以降でプリフライトや最適化コンポーネントでフォント埋め込みが行われないことがある**

システムにフォントが存在しているにもかかわらず、プリフライトや最適化コンポーネントで処理してもフォントの埋め込みが行われないことがあります。その場合はフォントを埋め込んでから FreeFlow Core で処理してください。

- 「面付け」の[トンボ]で、[ページ範囲]に数字とハイフン以外を使用すると正しく動作しない

[面付け]コンポーネントの[トンボ]タブ-[配置]の[ページ範囲]に数字とハイフン(例:「1」、「1-1」)以外を使用しても正しく動作しませんので、使用しないでください。

- [カラーページ分割]プリセットの[カラーコンテンツ面積割合]オプションが正しく動作しない

[カラーページ割合]プリセットで[カラーコンテンツ面積割合]オプションが有効の時、[最小カラー範囲]の値を指定しても、期待通りに分割されないことがあります。[カラーコンテンツ面積割合]オプションを使用しないでください。

- 使用可能なプリフライトプロファイルバージョン

Xerox FreeFlow Core がサポートするプリフライトプロファイルのバージョンは、内部で利用している 3rd Party モジュールのバージョンにより異なります。

Acrobat や pdfToolbox で作成・書き出しを行ったプロファイルを利用する場合は、ご利用中の Xerox FreeFlow Core がサポートするプリフライトプロファイルのバージョンが該当バージョンと同一もしくは古いプロファイルであることを確認してください。

FreeFlow			
Core	pdfpreflight version	Callas pdfToolbox	Adobe Acrobat Pro (*)
Core 5.1.0.10	16.0	Callas pdfToolbox 10	Acrobat Pro DC (2019 Release)
Core 5.4.x	↑	↑	Acrobat Pro DC (2020 Release)
Core 6.0.x	17.0	Callas pdfToolbox 11	-
Core 6.1.x	18.0	Callas pdfToolbox 12	Acrobat Pro DC (2021.007.20099)
Core 6.2.x	19.0	Callas pdfToolbox 13	Acrobat Pro DC (2022.002.20191)
Core 7.0.x	20.0	Callas pdfToolbox 14	Acrobat Pro DC (2023.001.20143)

(*) Acrobat のバージョンは本文書作成時のものです。

プリフライトプロファイルのバージョンは以下のようにして確認してください。

1. kfp または kfpX ファイルをテキストエディタで開く。
2. タグ「<pdfpreflight version="xx.x">」の値(xx.x)を確認する。

- 最適化コンポーネントの[トンボから仕上がりサイズを設定]オプションを有効にして処理をすると、FFCore 6.0 以降とそれ以前では、仕上がりサイズ、裁ち落としサイズの位置が異なる場合がある

最適化コンポーネントの[トンボから仕上がりサイズを設定]オプションを有効にして処理をすると、FFCore 6.0 以降とそれ以前では、二本線のトンボに対する 3rd Party モジュールの挙動が変わったため、仕上がりサイズ、裁ち落としサイズの位置が異なる場合があります。

二本線のトンボに対する FFCore 6.0 以降の 3rd Party モジュールの挙動は、Acrobat で処理した場合の挙動と一致しており、バージョンアップに伴う制限事項となります。

バージョンアップに伴い、仕上がりサイズ、裁ち落としサイズが意図しない位置になる場合は、予め原稿 PDF に仕上がりサイズ、裁ち落としサイズを指定したのち、最適化コンポーネントの[トンボから仕上がりサイズを設定]オプションを無効にして処理してください。

- **カラーページ分割コンポーネントのカラーページ判定機能の精度向上により、過去バージョンと比較して挙動が変わる場合がある**

Xerox FreeFlow Core 7.0 以降では、カラーページ分割コンポーネントが利用するカラーページ判定機能の精度向上により、Xerox FreeFlow Core 6.2 以前と比較して、カラーページ判定の挙動が変わる場合があります。

具体的には、以下のケースにおいて、過去にモノクロジョブと判定されていたページが、カラージョブと判定される場合があります。

- a) ページ内にごく少ないカラー要素が含まれている場合
- b) モノクロ系の色味の中に、カラー要素への偏りが含まれている場合

この挙動変更は、カラーページ検出の精度向上によるものです。

またカラーページ判定機能の精度向上に伴い、カラーページ分割コンポーネントの処理に以前よりも時間を要するようになりました。

Xerox FreeFlow Core 6.2 以前から、Xerox FreeFlow Core 7.0 にアップグレードしてご利用いただく際には、事前のテスト出力を行うなど、カラーページ分割コンポーネントのカラーページ判定の挙動を再確認してからご利用いただきますようお願いいたします。

- **Xerox FreeFlow Core 7.0 から「プリフライト、最適化、カラー調整の各コンポーネントでページ指定ができる」新機能が追加されたが、ページ指定に関係なく全体に対して実行されるものがある**

Xerox FreeFlow Core 7.0 から「プリフライト、最適化、カラー調整の各コンポーネントでページ指定ができる」新機能が追加されましたが、以下のオプションではページ指定の有無に関係なく、全体に対して実行されます。

[最適化コンポーネント]

- 標準 PDF へ変換
- 繰り返し使用されているコンテンツを除去
- Web 表示用に最適化
- 非表示レイヤーの廃棄
- 潜在的なフォントの問題を修正
- PDF のプロパティを上書き

[カラー調整コンポーネント]

- Pantone スポットカラー名を整合させる
- スポットカラー表示をノーマライズ
- レジストレーションカラーを変換 X。

- **ジョブ名とバーコードのデータで「<」や「>」が使えない**

Xerox FreeFlow Core 7.0.1 以降では、ジョブ名やバーコードのデータに「<」や「>」が使えません。

- **ヘルプにルーティングに設定できる条件は「5」とあるが正しくは「25」**

ヘルプ > 5 ワークフロー設定 > [ワークフロー設定]タブ > ワークフロープロセスの共通設定 > ルーティングの共通設定 の以下の記載に誤りがあります。

誤： セットには、それぞれ条件を 5 つまで含めることができます。…

正： セットには、それぞれ条件を 25 個まで含めることができます。…

含めることが出来る条件は「5」は誤りで、「25」が正しいです。

- **面付け、ウォーターマーク後にハイライトの形状・位置が変わる**

Acrobat でハイライトを施した PDF ファイルを面付け、またはウォーターマークコンポーネントで処理すると、ハイライトの形状や位置が変わりますのでご注意ください。

これを避けるためにはフィックスアップ「すべての注釈をページコンテンツに統合」を適用したプリフライトプリセットをワークフローの先頭に配置してください。

- **ウォーターマーク プリセットの不具合が確認された Xerox FreeFlow Core 6.2.5 までの環境からアップデートを行う場合は、Xerox FreeFlow Core 6.2.6 の環境に一旦アップデートしたのち、ウォーターマークプリセットを保存しなおす必要がある**

FreeFlow Core 6.1.5 から Xerox FreeFlow Core 6.2.5 までのバージョンでは、MAX 変数を使用してウォーターマークとして使用するファイルを指定したウォーターマーク プリセットが正しく動作しませんでした、Xerox FreeFlow Core 6.2.6 で修正されました。

この現象が発生している環境を Xerox FreeFlow Core 7.0.1 以降へアップデートしたい場合には、Xerox FreeFlow Core 6.2.6 の環境に一旦アップデートしたのち、現象が発生しているウォーターマークプリセットを保存し直してから、実施してください。

- **複数のアイテムをまとめて 1 ジョブとして送信する際に、同じ注文 ID、グループキーを持つ行が連続していなくても 1 ジョブにまとめられる**

「Manifest Automation from Xerox」の 2 MAX の設定と処理「マニフェストフィールド」の項、また 3 演習「サンプルの解説」の項で、標準フィールド「注文 ID」と「グループキー」について、「発注ファイルの連続した複数の行に同じ注文 ID、同じグループキーが割り当てられている場合、複数ファイルジョブとして 1 ジョブにまとめて Xerox FreeFlow Core に送信されます」という趣旨の記述がありますが、連続して記載していなくても、複数の行に同じ注文 ID、同じグループキーが割り当てられている場合、複数ファイルジョブとして 1 ジョブにまとめて送信されます。

- **Xerox FreeFlow Core 7.0.4 と 7.0.5 でウォーターマーク、プリフライト、最適化、ページ挿入、保存の各プリセットで、プリセットをコピーして保存、またはプリセット名を編集して保存すると、設定値のパスが異常になる**

Xerox FreeFlow Core 7.0.4 と 7.0.5 で、ウォーターマーク、最適化、プリフライト、ページ挿入、保存の各プリセットをコピーして保存、またはプリセット名を編集して保存すると、以下の設定値が異常になります。

- ・ウォーターマーク：タイプ:PDF > PDF ファイル
- ・ウォーターマーク：タイプ:イメージ > イメージファイル
- ・最適化：必要なフォントを埋め込む > フォント置換設定ファイル
- ・プリフライト：プロファイルを指定してプリフライト > プリフライトプロファイル

- ・プリフライト：プロセスプランを指定してプリフライト > プリフライトプロセスプラン
- ・ページ挿入：種類:文書を挿入(ページ数を指定) > ファイル
- ・保存：保存場所

これらのプリセットをコピー、またはプリセット名を編集して保存しないでください。

現象が発生した場合は、プリセットを編集して修正してください。

- **Xerox FreeFlow Core 7.0.7 以降へバージョンアップしたとき、ウォーターマークプリセットの[イメージファイル]または[PDF ファイル]の設定値に MAX 変数を使用していると修正が必要な場合がある**

ウォーターマークプリセットで[イメージファイル]または[PDF ファイル]に以下のように MAX 変数を使用して文書を指定している場合は、Xerox FreeFlow Core 7.0.7 以降にバージョンアップまたはインポートした後に値が異常になっている可能性があるため、お手数ですが再編集をお願いします。

- ・バージョン 6.2.6 から 7.0.5 を経由してバージョンアップした環境で、拡張子なしの絶対パスを MAX のフィールド値に使用し、その変数を指定している場合
- ・バージョン 7.0.1 から 7.0.3 を経由してバージョンアップした環境で、拡張子付きの絶対パスを MAX のフィールド値に使用し、その変数を指定している場合

バーコード機能に関する注意・制限事項

- **[バーコード]の印字位置が少し変わることがある**

FreeFlow Core 4.0 SP2 で行われた [バーコード]におけるクワイエットゾーン指定に対する基準値の見直しにより、クワイエットゾーンの最小値はフォントサイズに伴い変更されるようになりました。これにより FreeFlow Core 4.0 SP1 以前の[バーコード]で設定していたクワイエットゾーンよりクワイエットゾーンの最小値が大きい場合、バーコードの印字位置が同じにならないことがあります。

- **USPS Intelligent Mail Package バーコードのキャプション全体が表示されない**

USPS Intelligent Mail Package のバーコード幅が狭いとキャプション全体が表示されません。バーコードのフォントサイズを大きく設定してバーコード幅を広げてください。

- **[キャプションを含む]を有効にしてもバーコードキャプションが表示されない**

以下のバーコードシンボルで[キャプションを含む]を有効にしてもキャプションが表示されません。[キャプション倍率]のチェックを外すとキャプションが表示されます。

- PostNet
- USPS Intelligent Mail
- Australia Post 4-State
- Royal Mail CBC
- PostBar (Japan)

- **Code39 バーコードで[スタートキャラクター]/[ストップキャラクター]を有効にしないとバーコードリーダーで読み取れない**

Code39 バーコードを使用する場合は[スタートキャラクター]/[ストップキャラクター]を有効にしてください。

これらのオプションを有効にしないとバーコードリーダーで読み取れません。

- **[PostBar(Japan)]でバーコードを作成すると、郵政が定義するバーコード長さに収まらない場合がある**

[PostBar(Japan)]でバーコードを作成する際に、フォントサイズに 20-23 および 31-36 を指定すると、郵政が定義するバーコード長さ 64mm～88mm に収まりません。[PostBar(Japan)]でバーコードを作成する際には、フォントサイズ 24-30 を指定してください。

- **FreeFlow Core のバージョンアップに伴い、バーコードのサイズと位置が変わる場合がある**

FreeFlow Core 5.1 で行われたバーコードのフォントサイズ指定に対する基準値の見直しにより、FreeFlow Core 5.1 以前のバージョンからバージョンアップすると、印字されるバーコードのサイズと位置が変わる場合があります。

具体的には、ISBN/JAN/EAN を含むバーコードを指定した場合、以前のバージョンで同じフォントサイズを指定した場合と比較して、実際に印字するバーコードサイズがやや小さくなりました。また、この変更に伴い、クワイエットゾーンを含むバーコード全体のサイズが変更となり、バーコードの印字開始位置が変更となりました。

FreeFlow Core のバージョンアップを行う際には、これらの仕様変更による影響を事前検証にて確認し、バーコードのフォントサイズと位置指定の見直しを行ってください。

- **CMYK で指定したバーコードの色が正しく出力されない**

バーコードでカスタムカラーを指定する際、カラータイプ「CMYK」でカラー値を指定しても設定どおりの結果が得られません。

バーコードでカスタムカラーを指定する場合は、カラータイプ「CMYK」以外で指定してください。

- **バーコードのキャプションの端が欠けることがある**

[バーコード]プリセットにて、クワイエットゾーンを小さく設定したときにバーコードのキャプションが収まりきらず端が欠けることがあります。この場合はクワイエットゾーンを大きめに設定してください。

プリンター・印刷設定に関する注意・制限事項

- **IP アドレスを変更した場合にプリンター接続できなくなることがある**

DHCP 運用などで、FreeFlow Core を起動中に FreeFlow Core システムの IP アドレスが変更された場合、Core システムを再起動するまで登録している FreeFlow PrintServer との通信が全てエラーになってしまうことがあります。

FreeFlow Core をインストールするシステムは固定 IP アドレスを割り当てて運用してください。

- **[ジョブの送信制御]で監視するディスクを変更できない**

[ジョブの送信制御]のジョブ容量管理機能が正しく動作しない場合があります。複数のディスクを持つプリンターに対してこの機能を指定しないようにしてください。

- **ジョブ送信制御が指定できない**

プリンター管理/監視の[ジョブ送信制御]は以下のプリンターでのみ使用できます。

- FreeFlow Print Server 7.0 SP3 (CP.73.C3 以上)
- FreeFlow Print Server 9.0 SP3 (CP.93E1.82 以上)

- **FreeFlow Print Manager - Advanced Print Path の印刷設定が適用されない**

FreeFlow Print Manager - Advanced Print Path で作成したジョブチケットを使用する場合、以下の設定は FreeFlow Core では適用されません。

- ・ページ範囲
- ・色調整
- ・イメージ編集

- **くるみ製本が指定できない**

FreeFlow Core はくるみ製本機が接続されているプリンターに対して、くるみ製本を指示することができません。

- **[プリンター管理/監視]の[完了時間]で表示される時間は、実際の処理時間とは異なることがある**

[完了時間]で表示される時間は、プリントコントローラ上に未処理ジョブとして残っているジョブに対して、プリンターの処理性能やジョブ属性から算出した予想時間です。従って、実際の処理時間とは異なることがありますので、目安として参照してください。

例えば、以下のようなケースでは予想時間が実際の処理時間と異なります。

- プリントコントローラ上にキャンセルやアボートされたジョブが残っている場合
- プリントコントローラからジョブ属性が取得できない場合
- プリンターの印刷処理でサイクルダウンが発生した場合

- **[プリンター管理/監視]タブでの表示情報について**

[プリンター管理/監視]タブで表示されるステータス情報関連情報は、プリンター側の能力に依存します。従ってプリンターによってはステータス情報が表示されない場合があります。次のステータス情報に関して、

(A)プリンター状態/未完了ジョブ/完了時間/プリンターステータスメッセージ

(B)給紙トレイ、インクトナー、排出先、スプールディスク

FreeFlow Core でサポートしているプリンターの内、以下のプリンターでは、(A)と(B)の情報が表示され、

- D110/D125/D136 Light Publisher (FreeFlow Print Server 9.0 / 9.0 SP3)
- D95 CPS (Integrated copy/print Server 1.0)
- D110/D125/D136 Light Publisher (Integrated copy/print server 1.0)
- Nuvera 144/157 EA Production System (FreeFlow Print Server 7.0 SP3)
- Nuvera 288/314 EA Perfecting Production System (FreeFlow Print Server 7.0 SP3)
- Color 800/1000 Press (FreeFlow Print Server 9.0 SP1 / SP3)

以下のプリンターでは(A)のみの情報が表示されます。

- DocuColor 7171P (PX Print Server 7.2)
- Color 800/1000 Press (PX Print Server 7.1 / 7.2)
- Xerox iGen5 150 Press (FreeFlow Print Server 2x.x)

- **プリンタータイプが正しくない**

以下のプリンターに対してプリンター情報を取得する際、プリンタータイプに"Fuji Xerox 700 Digital Color Press, PX700 Print Server V4.1"と表記されます。

- DC5656P PX 560 Print Server
- Color C75 Press PX750 Print Server U 7.0

- **GX Print Server に対して Z 折りフィニッシングが指定できない**

FreeFlow Core は、GX Print Server に対して、Z 折りフィニッシングを指定することができません。Z 折りフィニッシングを使用したい場合は、GX Print Server 側で Z 折りフィニッシングを指定したキューを FreeFlow Core から指定してください。

- **GX Print Server、Revoria Flow、GP Controller のカスタム設定の論理プリンターへ送信したジョブがエラー終了する**

GX Print Server、Revoria Flow、GP Controller でカスタム設定の論理プリンターに対してジョブを送信した場合、ジョブがエラー終了することがあります。その場合は、必ずテンプレートを使用するキューを指定してください。

- **Versant 2100 Press GX Print Server 1.0 で排出先に存在しないトレイが選択できてしまう**

フィニッシャーオプションを接続していない Versant 2100 Press GX Print Server 1.0 に対して、排出先として"トップトレイ"を選択できることがあります。Versant 2100 Press GX Print Server 1.0 連携において、フィニッシャーオプションを接続していない場合は、排出先にトップトレイを選択しないでください。

- **1400 Inkjet Color Continuous Feed Printing System GX Print Server 1.0 に指定した印刷設定が反映されない**

1400 Inkjet Color Continuous Feed Printing System GX Print Server 1.0 に対して、[印刷]コンポーネントで設定した以下のジョブチケットは、プリンターの印刷設定に反映されません。

- メインストック
- 両面/片面
- 丁合い
- 例外紙

- **Fiery System 10 上に保留されているジョブが削除された場合、印刷ステータスが更新されない**

Fiery System 10 上の Hold キューに保留されているジョブを Fiery System 10 上で削除した場合、そのジョブに紐づく FreeFlow Core 上のジョブの印刷ステータスは空白になります。

- **Fiery Color Server プリンターがバナーページをサポートしていないときにも、"バナーページを出力する"が有効になる**

Core のプリントコンポーネントで Fiery Color Server プリンターに接続したとき、プリンターがバナーページをサポートしていないときにも、"バナーページを出力する"が有効になることがあります。ご使用の Fiery Color Server プリンターがバナーページをサポートしていないときには、"バナーページを出力する"を指

定しないでください。

- **ホスト名が同じプリンターを登録するとキューが混在する**

ホスト名が同じプリンターを登録すると、出力先プリンターリストで異なるプリンターのキューが混在して表示されます。ホスト名が同じプリンターを出力先プリンターとして登録しないでください。ネットワーク上でプリンターのホスト名は一意となる必要があります。

- **GX Print Server、Revoria Flow、GP Controller プリンターが節電状態のときに、プリンターステータスが利用不可と表示される**

GX Print Server、Revoria Flow、GP Controller プリンターと接続されている状態にて、これらのプリンターが節電状態のときには、FreeFlow Core でのプリンターステータスが利用不可と表示されます。

- **Fiery Print Server プリンターでプリンターコントローラー空きディスク容量でのジョブ送信制御機能はできない**

Fiery Print Server プリンターに接続する場合、Fiery Print Server から DFE で使用可能なスプール容量の情報が取得できないため、プリンターコントローラー空きディスク容量でのジョブ送信制御機能を利用できません。

- **Iridesse Production Press (GX Print Server for the Iridesse Production Press)、Revoria Press PC1120 / Revoria Press PC1120 S (Revoria Flow PC11)に接続時、例外ページの設定画面に[グレースケールで印刷]チェックボックスが表示されない**

Iridesse Production Press (GX Print Server for the Iridesse Production Press)、または Revoria Press PC1120 / Revoria Press PC1120 S (Revoria Flow PC11)の例外ページ設定画面に[グレースケールで印刷]チェックボックスが表示されません。[グレースケールで印刷]を指定する場合は、プリンター側で設定してください。

- **Nuvera(FreeFlow Print Server 7.0)の消耗品状態が正確に表示されない。**

Nuvera(FreeFlow Print Server 7.0)と接続されている状態にて、[プリンターと消耗品の状態]画面内で以下の不具合が発生することがあります。正確なプリンター情報が必要な場合は直接プリンターを確認してください。

- 用紙トレイ情報が表示されない
- 不正なインクトナー情報が表示される
- 排出先名の文字化けが発生する

- **未完了ジョブ数として反映されないジョブがある**

複数キューを登録している場合に、未完了ジョブ数として一部のキューからの未完了ジョブ数のみが反映されている場合があります。

- **未完了ジョブ数が正しくない**

未完了ジョブ数が実際の数と異なる場合があります。

- **連帳機はジョブチケットの一部をサポートしない**

FreeFlow Core から連帳機へ接続した場合に、以下のジョブプロパティについて UI から設定可能ですが、連帳機がサポートしない機能のため設定が無視されます。

- ストック
- 両面/片面
- 丁合い

- **GX Print Server の特定のバージョンで Interposer 給紙トレイ用紙残量値が正確に表示されない**

バージョン 1.6.7、2.0.1、2.1.0、2.1.3 の GX Print Server と接続されている状態にて、[プリンターと消耗品の状態]画面内で不正な Interposer 給紙トレイの用紙残量値が表示されることがあります。正確なプリンター情報が必要な場合は直接プリンターを確認してください。

- **Job Submission Regulation 機能が正確に動作しない**

未完了ジョブ数で Job Submission Regulation を適応した場合、ジョブ送信が制御されるまでに閾値を大幅に上回る場合があります。

- **印刷プリセットでラウンドロビン機能を設定するとジョブの分配に偏りが発生する**

印刷プリセットでラウンドロビン機能を以下の通りに設定すると、ジョブのほとんどが一番目に追加された出力先プリンターに送られます。

- ・プリンター選択: 出力先プリンターにジョブを均等に送信
- ・分割条件: 処理可能な送信先を順番に選択(ラウンドロビン)
- ・出力先プリンター: (任意のプリンター2 台)

- **GX Print Server、Revoria Flow、GP Controller から取得するプリンターステータスが正確ではない場合がある**

GX Print Server、Revoria Flow、GP Controller の論理プリンターでジョブを処理する設定が有効になっていない場合、FreeFlow Core でプリンターのステータスが正しく取得できません。プリンターのステータスを正しく取得するには、論理プリンターの処理をジョブ処理するに設定してください。

- **論理プリンター名の制限**

論理プリンター名、またはキュー名は、以下の文字のみ使用できます。

- 半角数字
- 半角アルファベット
- 半角ハイフン(-)
- 半角アンダーバー(_)

FreeFlow Core の IP アドレスとワークフロー名を指定して LPR 送信する場合に指定できるワークフロー名も、この制限に準拠します。

- **B9136/B9125/B9110 Light Publisher (Integrated Copy/Print Server 1.0) でユーザー用紙を設定した用紙トレイは FreeFlow から参照できない**

B9136/B9125/B9110 Light Publisher (Integrated Copy/Print Server 1.0) では、紙種に応じた印

刷条件を設定可能な「ユーザー用紙」を登録することができますが、「ユーザー用紙」を割り当てたトレイの用紙を FreeFlow から使用できません。これは「ユーザー用紙」を割り当てたトレイの情報を FreeFlow に渡さないという、プリンター側の仕様によるものです。

このため FreeFlow から送信するジョブに対しては、「ユーザー用紙」で登録できるアライメント補正・エアアシスト調整・転写出力調整等を利用することは出来ません。

これらの機能を使用したい場合はトレイに直接設定し、FreeFlow からはこのトレイに設定した用紙の属性（サイズ・色・質量等）を指定してください。

- **GX Print Server、Revoria Flow、GP Controller のスプール容量が取得できない**

[プリンターと消耗品の状態]タブにおいて、GX Print Server、Revoria Flow、GP Controller のプリンターではスプール容量が表示されません。スプール容量を確認する場合はコントローラーの画面をご参照ください。

- **FreeFlow Core 6.0.0 より、JDF 形式のジョブチケットにおける「セットアップ>用紙出力」の値が以前とは逆の値に変更された**

これまで FreeFlow Core で保存する JDF 形式のジョブチケットでは、「セットアップ>用紙出力」の値に「1-N Face up (おもて面を上/先頭シートを一番下)」を指定すると、FreeFlow Print Manager - Advanced Print Path で読み込んだ場合に、「1-N Face up (おもて面を上/先頭シートを一番下)」が表示されるようになっていました。これは一見正しい値のように見えますが、FFPS の動作に合わせたものであり、本来の仕様とは異なる値になっていました。

FreeFlow Core 6.0.0 からは、本来の設定値の意図に合わせて、「1-N Face up (おもて面を上/先頭シートを一番下)」を指定すると、FreeFlow Print Manager - Advanced Print Path で読み込んだ場合に、「N-1 Face up (おもて面を上/先頭シートを一番上)」が表示されるようになりました。

FreeFlow Core 6.0.0 より前の FreeFlow Core で保存した JDF 形式のジョブチケットとは値が異なりますのでご注意ください。

- **プリンターグループに対しては、ジョブチケットの上書きや編集はできない**

ジョブ送信ダイアログで[出力先プリンター]ドロップダウンからプリンターグループを選択する場合、出力先プリンターが決められていないため、[ジョブチケット設定を上書き]は無効になります。

- **コマンドラインインターフェースでプリンターグループに送信したジョブでは、処理開始の前に出力先プリンター名は表示されない**

コマンドラインインターフェースでプリンターグループに送信したジョブの状態が「オープン」/「オープン・保留」/「保留中」の場合、処理が開始する前に出力先プリンターが決められていないため、プリンター名は表示されません。

- **GX Print Server および GP Controller D01、Revoria Flow に対して[フィニッシング]>[二つ折り 複数シート]設定でジョブを送信すると紙折枚数はプリンターで指定している最大値が設定される**

FreeFlow Core から[フィニッシング]>[二つ折り 複数シート]設定を指定して送信したジョブの紙折枚数はプリンターで指定している紙折枚数の最大値に設定されます。紙折枚数の設定を変更したい場合は事前にプリンターで指定してください。

- **[ルーティング]プリセットのジョブ処理条件に「出力先」を設定する場合は、プリンター構成ごとに固有の出力先名を指定する必要がある**

[ルーティング]プリセットのジョブ処理条件の属性で「出力先」を設定する場合、出力先プリンターに表示されている「出力先」の名前を指定しても、意図通りに処理が行われません。ジョブ処理条件の属性で「出力先」を設定する場合は、出力先プリンターに表示されている「出力先」の名前ではなく、プリンター構成ごとに固有の出力先名を指定する必要があります。

プリンター構成ごとに固有の出力先名については、弊社担当者を通じてお問合せください。

- **特定のフィニッシングを設定したジョブは GX Print Server、Revoria Flow で出力エラーになる**
GX Print Server や Revoria Flow に下記フィニッシング設定で「A3 よこ」のジョブを送信すると、フィニッシング位置不正エラーが表示され、出力できません。

ホチキス:左辺 2ヶ所／パンチ:左片 2 穴／紙折り:Z 折り

- **例外ページと合紙を上書き設定したジョブを Nuvera FFPS へ送信すると失敗することがある**
ジョブ送信ウィンドウで[ジョブチケット設定を上書き]し、例外ページと合紙を設定して Nuvera FFPS へ送信すると、ジョブはステータス詳細「プリンターに接続できないため、指定した文書を印刷できません。」で失敗する場合があります。このような場合は[ジョブチケット設定を上書き]の設定を行わず、プリンターへ送信後に例外設定をしてください。

- **複数フィニッシングを指定したジョブを GX Print Server およびバージョン 3.1.0 以前の Revoria Flow/GP Controller へ送信すると、ホチキスが正しく表示されない**

以下の複数フィニッシングを指定したジョブを GX Print Server およびバージョン 3.1.0 以前の Revoria Flow/GP Controller へ送信すると、ジョブプロパティではホチキス位置が「左上 1ヶ所」と表示されます。

- ・ホチキス:ホチキス 1ヶ所左下(プリンタ上の期待値: 左下 1ヶ所)
- ・パンチ:2 穴左辺(プリンタ上の期待値: 上 2 穴)
- ・Z 折り:オン(プリンタ上の期待値: Z 折り(左とじ/上とじ))

印刷結果を確認し、正しくなければ GX Print Server で設定し直してください。

- **Nuvera FFPS へ IPP または JMF でジョブチケット付きのジョブを送信しても、指定した属性は反映されないことがある**

Nuvera FFPS へ IPP または JMF でジョブチケット付きのジョブを送信しても、ジョブチケットに定義した属性がジョブに反映されないことがあります。

- **登録済みの出力先プリンターの IP アドレスを変更するとキュー名が空欄になる**

Xerox FreeFlow 6.2.3 以降で、登録済みの出力先プリンターの IP アドレスを変更すると、キュー名が空欄になることがあります。IP アドレスを変更したときは[プリンター情報を再取得]ボタンをクリックして、正しい値が設定されるようにしてください。

入力ファイル・変換に関する注意・制限事項

- **PDF データのサポート範囲について**

FreeFlow Core では、以下の条件を満たす PDF データをサポートします。サポート範囲内の PDF データを使用してください。

- ページ数が 30,000 ページ未満
- ファイルサイズが 15GB 未満
- パスワードが設定されていない

- **クリッピングパスは正しく縮小・拡大されない**

クリッピングパスを持つ PDF を[縮小・拡大]で処理するとき、クリッピングパスは正しく縮小・拡大されません。クリッピングパスを持つ PDF を縮小・拡大したい場合は、一度 eps ファイルへ変換してから入力してください。

- **サポートする TIFF の機能について**

TIFF の次の機能はサポートしていません。

YCbCr カラースペース。また、透過 TIFF は変換すると、透明部分が保持されません。

- **VIPP ジョブの PDF/VT 変換について**

FreeFlow Core の Variable Print オプションが有効な場合、VIPPP ジョブを PDF に変更して処理を行うことができます。変換時に指定可能なオプションとして"PDF/VT として変換"を指定すると、日本語フォントの埋め込みエラーによりジョブが変換エラーとなることがあります。FreeFlow Core の VIPPP オプションで日本語フォントをご使用になる場合は、PDF/VT ではなく"PDF として変換"を指定してください。

- **PDF 保存先が相対パスの JDF ではジョブがエラーになる**

PDF 保存先が相対パスの JDF が FreeFlow Core に入力された場合、ジョブがエラーになります。[保存]コンポーネントで保存した JDF を FreeFlow Core へ再入力するために使用する場合は、JDF に記載する PDF の保存先には絶対パスを指定してください。

- **MAX ジョブの入力ファイルパスに¥r か¥n が含まれるときジョブが異常終了する**

MAX のジョブ入力ファイルが指定する入力ファイルのパスに¥r か¥n が含まれる場合、ジョブが異常終了します。これは¥r か¥n がファイルパスの途中に含まれる場合も同様です。例えば、以下のようなファイルパスを指定するとジョブが異常終了します。

[¥n を含むファイルパス]

C:\data\new\test.jpg

C:\data\old\number.jpg

[¥r を含むファイルパス]

C:\data\resource\test.jpg

C:\data\file\red.jpg

この場合、以下のいずれかの回避策を適用してジョブ処理を実行してください。

<回避策 1>

ジョブ入力ファイルに記載されている\ n または\ r の記述を\ N または\ R に変更してください。

回避策適用例は以下になります。

[\ n を含むファイルパス]

C:\data\New\test.jpg

C:\data\old\Number.jpg

[\ r を含むファイルパス]

C:\data\Resource\test.jpg

C:\data\file\Red.jpg

<回避策 2>

ジョブ入力ファイルに記載されている\ n または\ r のバックスラッシュ(\)をスラッシュ(/)に変更してください。

回避策適用例は以下になります。

[\ n を含むファイルパス]

C:\data/new\test.jpg

C:\data\old/number.jpg

[\ r を含むファイルパス]

C:\data/resource\test.jpg

C:\data\file/red.jpg

<回避策 3>

ジョブ入力ファイルに記載されているバックスラッシュ(\)をすべてスラッシュ(/)に変更してください。

回避策適用例は以下になります。

[\ n を含むファイルパス]

C:/data/new/test.jpg

C:/data/old/number.jpg

[\ r を含むファイルパス]

C:/data/resource/test.jpg

C:/data/file/red.jpg

- **ジョブ送信ダイアログで挿入紙のシート範囲に負数を指定するとプリンターに挿入紙属性が送信されない**

ジョブ送信ダイアログの[ジョブチケット設定を上書き]オプションを有効にして、[特殊ページ]タブの挿入紙設定で、"1--1" のようにシート範囲の終了ページに負数を指定するとジョブチケットに挿入紙属性が反映されないため、プリンターに挿入紙属性が送信されません。ジョブ送信ダイアログで挿入紙を設定する場合は、シート範囲を "1-10" のように正数を指定してください。

- **GX Print Server に 2GB 以上の PDF を送信するとエラー終了する**

2GB 以上の PDF を送信すると「プリンターに接続できないため、指定した文書を印刷できません。ジョブ送信はこのプリンター出力先に対して一時停止されました。」が表示されてジョブはエラー終了します。GX Print Server には 2GB 未満の PDF を送信してください。

- **JDF ジョブの CustomerInfo 属性が失われる**

CustomerInfo 属性が指定された JDF を FreeFlow Core に送信すると、入力時に以下の CustomerInfo 属性が失われてしまい、[保存]コンポーネントで保存される JDF にも指定されません。

<CustomerInfo/Contact/Company>

<CustomerInfo/Contact/Person>

<CustomerInfo/Contact/Person/Adress>

<CustomerInfo/Contact/Person/ComChannel>

- **PDF バージョンが変更される場合がある**

各コンポーネントで PDF を処理すると、以下のように PDF バージョンが変更された PDF が作成されます。

- ・プリフライト

PDF バージョンは変更されません。

- ・最適化

PDF バージョン"1.2"が"1.3"に変更されます。

- ・面付け

PDF バージョンは変更されません。

- ・カラー調整

PDF バージョン"1.2"が"1.3"に変更されます。

- ・イメージエンハンス

PDF バージョン"1.2"が"1.3"に変更されます。

- ・バーコード

PDF バージョン"1.2"が"1.3"に変更されます。

- ・ウォーターマーク

PDF バージョン"1.2"が"1.3"に変更されます。

- ・プレスマーク

PDF バージョン"1.2"が"1.3"に変更されます。

- ・ページ番号

PDF バージョン"1.2"が"1.3"に変更されます。

- ・縮小／拡大

PDF バージョン"1.2"が"1.3"に変更されます。

- ・回転

PDF バージョン"1.2"が"1.3"に変更されます。

- ・ページ挿入

PDF バージョン"1.2"が"1.3"に変更されます。

- ページ削除

PDF バージョン"1.2"が"1.3"に変更されます。

- ルーティング

PDF バージョンは変更されません。

- 分配

PDF バージョンは変更されません。

- 集約

PDF バージョンは変更されません。

- 分割

PDF バージョンは変更されません。

- 連結

PDF バージョンは変更されません。

- カラーページ分割

PDF バージョンは変更されません。

- 外部

PDF バージョンは変更されません。

- 印刷

PDF バージョンは変更されません。

- フィニッシャー

PDF バージョンは変更されません。

- 保存

PDF バージョンは変更されません。

- **PDF の規格が変更される場合がある**

各コンポーネントで規格準拠した PDF を処理すると、以下のように規格準拠しない PDF が作成されます。

- プリフライト

PDF の規格は変更されません。

- 最適化

PDF の規格は変更されません。

- 面付け

PDF/X-4p, PDF/A-1a, PDF/A-1b, PDF/A-2a, PDF/A-2u, PDF/A-2b, PDF/A-3a, PDF/A-3u, PDF/A-3b, PDF/E-1 に規格準拠した PDF を処理すると、規格準拠しない PDF が作成されます。このような問題が発生した場合、最適化コンポーネントを使用して規格準拠した PDF に再変換してください。ただし、最適化コンポーネントでサポートしている PDF/A-3u, PDF/A-3b への再変換は正常に処理されますが、その他の規格は再変換することができません。

- カラー調整

PDF/X-4 に規格準拠した PDF を処理すると、規格準拠しない PDF が作成されます。このような問題が発生した場合、最適化コンポーネントを使用しても規格準拠した PDF に再変換することができません。

- イメージエンハンス

PDF の規格は変更されません。

- バーコード

PDF の規格は変更されません。

- ウォーターマーク

PDF/X-1a(2001), PDF/X-3(2002), PDF/X-4, PDF/X-4p, PDF/A-1a, PDF/A-1b, PDF/A-2a, PDF/A-2u, PDF/A-2b, PDF/A-3a, PDF/A-3u, PDF/A-3b, PDF/E-1 に規格準拠した PDF を処理すると、規格準拠しない PDF が作成されます。このような問題が発生した場合、最適化コンポーネントを使用して規格準拠した PDF に再変換してください。ただし、最適化コンポーネントでサポートしている PDF/X-1a(2001), PDF/X-3(2002), PDF/X-4, PDF/X-4p への再変換は正常に処理されますが、その他の規格は再変換することができません。

- プレスマーク

PDF/X-1a(2001), PDF/X-3(2002), PDF/X-4, PDF/A-1a, PDF/A-1b, PDF/A-2a, PDF/A-2u, PDF/A-2b, PDF/A-3a, PDF/A-3u, PDF/A-3b に規格準拠した PDF を処理すると、規格準拠しない PDF が作成されます。このような問題が発生した場合、最適化コンポーネントを使用して規格準拠した PDF に再変換してください。ただし、最適化コンポーネントでサポートしている PDF/X-1a(2001), PDF/X-3(2002), PDF/X-4, PDF/A-3a, PDF/A-3u, PDF/A-3b への再変換は正常に処理されますが、その他の規格は再変換することができません。

- ページ番号

PDF/X-1a(2001), PDF/X-3(2002), PDF/X-4, PDF/X-4p, PDF/A-1a, PDF/A-1b, PDF/A-2a, PDF/A-2u, PDF/A-2b, PDF/A-3a, PDF/A-3u, PDF/A-3b, PDF/E-1 に規格準拠した PDF を処理すると、規格準拠しない PDF が作成されます。このような問題が発生した場合、最適化コンポーネントを使用して規格準拠した PDF に再変換してください。ただし、最適化コンポーネントでサポートしている PDF/X-1a(2001), PDF/X-3(2002), PDF/X-4, PDF/X-4p への再変換は正常に処理されますが、その他の規格は再変換することができません。

- 縮小／拡大

PDF の規格は変更されません。

- 回転

PDF の規格は変更されません。

- ページ挿入

PDF の規格は変更されません。

- ページ削除

PDF の規格は変更されません。

- ルーティング

PDF の規格は変更されません。

- 分配

PDF の規格は変更されません。

- 集約

PDF の規格は変更されません。

- 分割

PDF/X-1a(2001) , PDF/X-3(2002), PDF/X-4, PDF/X-4p, PDF/A-1a, PDF/A-1b, PDF/A-2a, PDF/A-2u, PDF/A-2b, PDF/A-3a, PDF/A-3u, PDF/A-3b, PDF/E-1 に規格準拠した PDF を処理すると、規格準拠しない PDF が作成されます。このような問題が発生した場合、最適化コンポーネントを使用して規格準拠した PDF に再変換してください。ただし、最適化コンポーネントでサポートしている PDF/X-1a(2001) , PDF/X-3(2002), PDF/A-3u, PDF/A-3b への再変換は正常に処理されますが、その他の規格は再変換することができません。

• 連結

PDF/X-4, PDF/X-4p, PDF/A-1a, PDF/A-1b, PDF/A-2a, PDF/A-2u, PDF/A-2b, PDF/A-3a, PDF/A-3u, PDF/A-3b, PDF/E-1 に規格準拠した PDF を処理すると、規格準拠しない PDF が作成されます。このような問題が発生した場合、最適化コンポーネントを使用して規格準拠した PDF に再変換してください。ただし、最適化コンポーネントでサポートしている PDF/A-3u, PDF/A-3b への再変換は正常に処理されますが、その他の規格は再変換することができません。

• カラーページ分割

PDF/X-1a(2001) , PDF/X-3(2002), PDF/X-4, PDF/X-4p, PDF/A-1a, PDF/A-1b, PDF/A-2a, PDF/A-2u, PDF/A-2b, PDF/A-3a, PDF/A-3u, PDF/A-3b, PDF/E-1 に規格準拠した PDF を処理すると、規格準拠しない PDF が作成されます。このような問題が発生した場合、最適化コンポーネントを使用して規格準拠した PDF に再変換してください。ただし、最適化コンポーネントでサポートしている PDF/X-1a(2001) , PDF/X-3(2002), PDF/A-3u, PDF/A-3b への再変換は正常に処理されますが、その他の規格は再変換することができません。

• 外部

PDF の規格は変更されません。

• 印刷

PDF の規格は変更されません。

• フィニッシャー

PDF の規格は変更されません。

• 保存

PDF の規格は変更されません。

[補足]

最適化コンポーネントでは PDF/X-1a(2001), PDF/X-3(2002), PDF/X-4, PDF/X-4p, PDF/A-3a, PDF/A-3u, PDF/A-3b に規格準拠した PDF への変換をサポートしています。

最適化コンポーネントで対応できない規格準拠への再変換を実施する場合は、Acrobat Pro で作成したプリフライトプロファイルを使用してプリフライトコンポーネントで実施してください。

ただし、プリフライトコンポーネントでも規格準拠した PDF に再変換できない場合があります。

● **FreeFlow Core 環境において、Windows 10 のアップデートを実施後、Office 変換が失敗する**

FreeFlow Core 環境で Windows 10 のアップデートを実施すると、その後、Office 変換が失敗します。Office 変換機能を復旧するためには、FreeFlow Core の最新版へのアップグレード又は再インストールを実施してください。

- **TIFF を処理するとイメージが乱れることがある**

TIFF を処理するとイメージが乱れて PDF に変換される場合があります。

このような問題が発生した場合は、事前に Adobe Acrobat で TIFF を PDF に変換してから処理を実行してください。

- **ジョブ優先度が機能しない場合がある**

[保留状態でジョブを送信]が有効で、[保留期間]が同一日時に設定されて送信されたジョブ間では、[ジョブ優先度]が機能しません。

- **Windows Server 2022 で Office ジョブが失敗する**

Windows Server 2022 にインストールした FreeFlow Core では Office ジョブが失敗します。

FreeFlow Core にて Office ジョブを使用する場合は、Windows Server 2022 以外の環境をご利用ください。

- **Windows11 に構築した Xerox FreeFlow Core に Word 文書と PowerPoint 文書を投入すると失敗する**

Windows11 にインストールした Xerox FreeFlow Core に Microsoft Office 文書を投入すると、Excel 文書は成功しますが Word、PowerPoint 文書は失敗します。

Windows11 にインストールした Xerox FreeFlow Core に Word、PowerPoint 文書を送信しないでください。

インポート・エクスポートに関する注意・制限事項

- **インポートしたワークフローを編集できない**

FreeFlow Core4.0.1.2 以前の Core Exchange を用いて[条件分岐]及び[分割]の分岐先を別の分岐先に接続しているワークフローをエクスポートした場合、そのワークフローをインポートすると、そのワークフローを選択する度にエラーダイアログが表示され、編集できないことがあります。FreeFlow Core4.0.1.2 以前から[条件分岐]及び[分割]を含むワークフローをエクスポートする場合、分岐先の接続を解除してからエクスポートしてください。

- **プリフライトプロファイルをエクスポートできない**

FreeFlow Core4.0.1.2 以前のバージョンで作成されたワークフローをエクスポートした場合、インポート時にプリフライトに使用するプロファイルのファイルがコピーされません。この場合、プリフライトコンポーネントの編集画面から、使用していたプロファイルをアップロードしてください。

- **プリフライトプロファイルを Core Exchange でエクスポートできない**

プリフライトプロファイルのデフォルトフォルダー名が[プロファイル]から[Profiles]に変更になりました。旧バージョンの FreeFlow Core で使用していた、データフォルダーの下での[プロファイル]フォルダーのプリフライトプロファイルは、[Profiles]フォルダーに移動してください。

- **ICC プロファイルは CoreExchange でインストールされない**

CoreExchange から[カラー変換]プリセットをインポートする際、そのプリセットで指定される ICC プロファイルはインポートされません。FreeFlow Core で ICC プロファイルを使用するためには ICC プロファイルを Windows へインストールの上、システムを再起動してください。

- **FreeFlow Core 4.0 SP3 以前の[分割]プリセットの分割ルール設定が保持されない**

FreeFlow Core 4.0 SP3 以前のバージョンで作成した[分割]プリセットにおいて、[ルール毎に部数を分割]とページ選択またはレコード選択を同時に設定していた場合、Core 5.0 へアップグレード、もしくは FreeFlow Core 4.0 SP3 以前のバージョンでエクスポートしたワークフローをインポートした後では、ページ選択またはレコード選択の設定が失われます。これは Core 5.0 における[分割]コンポーネントの仕様変更によるものです。

そのような組み合わせの条件にてジョブを分割する場合には、各々の分割条件による[分割]プリセットを作成し、作成した[分割]プリセットを組み合わせたワークフローを構築してください。

- **[プリフライト]の最小解像度のみのチェックはできない**

FreeFlow Core 4.0.3.1 以降では、[プリフライト]の解像度チェックは最小解像度および最大解像度の設定が必須となり、FreeFlow Core 4.0.2.2 以前の機能である最小解像度のみのチェックは行えなくなりました。

FreeFlow Core 4.0.2.2 以前のバージョンからアップグレード、もしくは FreeFlow Core 4.0.2.2 以前のバージョンでエクスポートしたワークフローをインポートした場合は、[プリフライト]の最大解像度にデフォルトである 1200 が自動的に設定されます。最小解像度のみのチェックを行いたい場合には、アップグレードもしくはインポート後に最大解像度として十分大きな値(最大値:9999)を手動で設定するか、Adobe Acrobat などでも最小解像度のみをチェックするプリフライトプロファイルを作成して設定してください。

- **[プリフライト]のジョブ停止条件を正常にエクスポートできない**

FreeFlow Core 4.0.3.3 以前のバージョンにおいて、ワークフローをエクスポートした場合に[プリフライト]のジョブ停止条件の設定値が正しくエクスポートできず、インポート時に設定値が変わってしまうことがあります。FreeFlow Core 4.0.3.4 もしくは Core 5.0.0.0 ではこの問題は修正されているため、これらのバージョン以降にバージョンアップしてからエクスポートを実施するか、バージョンアップが不可能な場合はインポート後に設定値を手動で再設定してください。

- **[バーコード]の幅を正常にエクスポートできない**

FreeFlow Core 4.0.3.3 以前のバージョンにおいて、ワークフローをエクスポートした場合に[バーコード]の幅の設定値が正しくエクスポートできず、インポート時に設定値が変わってしまうことがあります。

FreeFlow Core 4.0.3.4 もしくは Core 5.0.0.0 ではこの問題は修正されているため、これらのバージョン以降にバージョンアップしてからエクスポートを実施するか、バージョンアップが不可能な場合はインポート後に設定値を手動で再設定してください。

- **ホットフォルダーの区切り文字を正常にエクスポートできない**

FreeFlow Core 4.0.3.3 以前のバージョンにおいて、ホットフォルダーをエクスポートした場合にホットフォルダーの区切り文字の設定値が正しくエクスポートできず、インポート時に設定値が変わってしまうことがあります。FreeFlow Core 4.0.3.4 もしくは FreeFlow Core 5.0.0.0 ではこの問題は修正されているため、これ

らのバージョン以降にバージョンアップしてからエクスポートを実施するか、バージョンアップが不可能な場合はインポート後に設定値を手動で再設定してください。

- **CoreExchange でエラー画面が表示される**

Microsoft Office 2016 と同居する環境において CoreExchange のエクスポート機能を使用する場合にエラーメッセージが表示されることがあります。このエラーメッセージが表示された場合にも、問題なくエクスポートをご使用いただけます。エラーメッセージを表示させないようにするためには、Visual Studio 2015 の Visual C++ 再頒布可能パッケージをダウンロードいただき、FreeFlow Core 環境にインストールしてください。

Visual Studio 2015 の Visual C++ 再頒布可能パッケージ

<https://www.microsoft.com/ja-JP/download/details.aspx?id=48145>

- **【縮小・拡大】の倍率およびサイズを正常にエクスポート&インポートできない**

FreeFlow Core 4.0.3.4 以前のバージョンにおいて、ワークフローをエクスポートした場合、【縮小・拡大】のメソッドで【サイズオフセット】または【パーセントオフセット】が選択されていると、インポート時に倍率およびサイズの設定値が変わってしまうことがあります。また、変更された設定値がサポート外の数値であった場合は、プリセットの編集画面を開くと「プリセットを読み込めません。」が表示されて設定値を手動で再設定できません。このような問題を回避するため、【サイズオフセット】または【パーセントオフセット】が選択された【縮小・拡大】プリセットを含むワークフローの場合には、各数値に"0"を設定してからエクスポートして、インポート後に設定値を手動で再設定してください。

- **【バーコード】プリセットの両面/片面設定が変更される**

【バーコード】プリセットの両面/片面設定について、FreeFlow Core 5.0.0.9 以前のバージョンからアップグレードもしくはワークフローをインポートすると、旧バージョンでは両面設定で処理していたジョブを現行バージョンでは片面設定で処理します。現行バージョンでも両面設定で処理するには、アップグレードもしくはワークフローをインポートした後に、手動で【バーコード】プリセットの両面/片面設定を両面に設定してください。

- **「FreeFlow Core クローンを作成」をチェックしてエクスポートしたワークフローをインポートすると、ワークフロー編集画面に表示されない**

FreeFlow Core アプリケーションにログインした状態で、同時に FreeFlow Core Exchange を起動した場合、「FreeFlow Core クローンを作成」をチェックしてエクスポートしたワークフローをインポートすると、FreeFlow Core のワークフロー編集画面に表示されません。

ワークフロー編集画面に表示させるためには、FreeFlow Core アプリケーションからログアウトしてから再度ログインしてください。

- **チェックボックス「FreeFlow Core が使用するファイルを含めない」のツールチップについて**

Core Exchange のエクスポートタブで、【FreeFlow Core が使用するファイルを含めない】チェックボックスの情報アイコンにカーソルを当てると表示されるツールチップの文「以下のアイテムはインポート側システムにすでに存在する可能性があります。不要な場合は除外してください。」の「以下のアイテム」は「FreeFlow Core が使用するファイル」を指します。

- **FreeFlow Core 5.1.0.10 以前でエクスポートしたバーコードプリセットを FreeFlow Core 5.4 以降にインポートすると、バーコードセグメントが空欄になる**

FreeFlow Core 5.1.0.10 以前のバージョンで、データにバーコード変数を使用したバーコードプリセットをエクスポートし、FreeFlow Core 5.4 以降のバージョンにインポートすると、バーコードプリセット編集画面のデータタブで、バーコードセグメントが空欄になる現象が発生します。

これは、テキスト以外のバーコード変数を指定した場合に、バーコードセグメントに null 値が設定されてしまうためです。このような場合は、以下の手順でバーコードセグメントが空欄になっているデータを削除し、再度追加してください。

1. インポート先で FreeFlow Core を起動し、ワークフロー設定タブをクリックします。
2. 左上のコンポーネント一覧よりバーコードを選択し、左下のプリセットでインポートしたバーコードプリセットを選択して編集アイコンをクリックします。
3. バーコードプリセット編集画面の右スパンで、一覧より対象のバーコードを選択して編集アイコンをクリックします。
4. データタブをクリックし、バーコードデータ欄で、空欄になっているバーコードセグメントを削除します。
5. [追加の値を選択:]より、削除したものと同じ値を選択し、同じ設定をして追加してから保存してください。

- **面付けプリセットの第二/第三ステージのカスタムサイズ用の紙がエクスポートされない**

FreeFlow Core 6.2.4 以前のバージョンでは、面付けプリセットの第二、第三ステージで定義したカスタムサイズの用紙がエクスポートされません。

お手数ですが、インポート先で面付けプリセットを再編集し、カスタムサイズの用紙を追加してください。

処理性能に関する注意・制限事項

- **ジョブの完了までに多く時間がかかることがある**

多数のジョブを同時に処理している場合、ジョブの完了までに普段よりも時間がかかることがあります。これは複数同時にジョブを処理している場合、単一ジョブの処理完了よりも、全体の処理進行を優先するためであり、単一のジョブに注目した場合、完了時間が延びることになります。

- **VPC ジョブを削除するときに、削除完了までに時間がかかることがある**

VPC を PDF へ変換したジョブを FreeFlow Core 上から削除完了までに時間がかかることがあります。

これは、"出力 PDF をデータセットごとに分割"を選択したワークフローで、大量のデータセットをもつ VPC を処理した場合に、内部的に大量のジョブを削除しているために発生します。"出力 PDF をデータセットごとに分割"は指定しないでください。

- **定期的にサービス再起動を実施してください**

FreeFlow Core におきましては、システムメンテナンスのため、FreeFlow Core サービス (MantisService.exe) または FreeFlow Core をインストールした PC の定期的な再起動を実施してください。

い。再起動は、FreeFlow Core サービス開始時から 25,000 ジョブを目途に行ってください。また、Windows タスクマネージャで、MantisService.exe の"メモリ量(コミットサイズ)"が、2GB を超えている場合は、再起動されることをお勧めいたします。

- **GX/PX Print Server、Revoria Flow、GP Controller への連続ジョブ出力のパフォーマンスが低下する**

FreeFlow Core から GX/PX Print Server、Revoria Flow、GP Controller へ連続ジョブ出力を行なうと、FreeFlow Core のパフォーマンスの低下が発生し、FreeFlow Core がジョブを受け付けてからジョブ処理が完了するまでに遅延が発生します。

- **ブラウザ起動後の初回操作時は表示に時間がかかることがある**

FreeFlow Core は Web ブラウザーを通じて操作するため、操作画面の表示速度はシステム設定やブラウザのキャッシュなどの影響を受けます。このため、ブラウザ起動後の初回操作時は表示に時間がかかることがあります。

操作画面の表示速度を向上させるため、FreeFlow Core のインストール時には、インストールガイドに記載されている以下の設定を行ってください。

- [電源プランの選択またはカスタマイズ] オプションで、[高パフォーマンス]を選択する
- Core サーバーへアクセスするブラウザ設定で、プロキシ サーバーの例外に FreeFlow Core サーバーの IP アドレスを指定する

その他の注意・制限事項

- **サブジョブの PDF がジョブステータスからダウンロードできない**

[ジョブをまとめる]設定した[保存]プリセットを含むワークフローで、グループジョブを処理した場合、代表ジョブ以外のサブジョブの PDF がジョブステータス上からダウンロードできません。処理結果は[保存]プリセットの保存先で確認してください。

- **グループジョブで保留中のサブジョブ数が正しく表示されない**

ジョブステータス上でグループジョブに含まれる保留中のサブジョブ数として UI に表示されているサブジョブのみをカウントしてしまっていることがあります。

正しいジョブ数を表示させるためには、一度ジョブをソートしてください。

- **FreeFlow Core が開始できない**

FreeFlow Core へ接続するとき、"サーバーへの接続が完了するのを待機しています。しばらくお待ちください"と表示され、ログイン画面が表示されないことがあります。これは FreeFlow Core サービスが起動するまでに SQL Server サービスが起動できなかった場合に発生します。"サーバーへの接続が完了するのを待機しています。しばらくお待ちください"と表示されたままログイン画面が表示されない場合は、FreeFlow Core が接続する SQL Server のインスタンスを再起動した上で、FreeFlow Core サービスを再起動してください。

- **FreeFlow Core アップグレード後にエラーが発生する**

FreeFlow Core をアップグレードした後で、アップグレード前に使用していたクライアントからアクセスすると、画面操作中にエラーが表示される場合があります。この現象は、クライアントブラウザでキャッシュしたデータがアップグレード後に更新されないことが原因で発生することがあります。FreeFlow Core をアップグレードした後、ご使用の Web ブラウザーから FreeFlow Core 画面の[FreeFlow Core バージョン情報]をクリックし、[バージョン]と[クライアント]のバージョン番号を確認してください。バージョン番号が異なるときには、Web ブラウザーのキャッシュに旧バージョンの情報が残っているので、以下の手順で Web ブラウザーのキャッシュをクリアしてください。

Chrome の場合

- (1) 右上の設定ボタンをクリックします。
- (2) [その他のツール]->[閲覧履歴データの消去]を選択します。

Edge の場合

- (1) 右上の「…」ボタンをクリックして、表示された一覧から「設定」をクリックします。
- (2) 左スパンの[プライバシーとセキュリティ]をクリックし、[閲覧データのクリア]欄から「クリアするデータの選択」をクリックします。
- (3) 「閲覧データの消去」が表示されます。「キャッシュされたデータとファイル」にチェックを入れて、「クリア」をクリックします。

Firefox の場合

- (1) オプションダイアログで、[プライバシー]→[最近の履歴を小消去]をクリックしてください。
- (2) [すべての履歴]を選択して、[キャッシュ]オプションだけチェックを入れた状態で[今すぐ消去]ボタンをクリックしてください。
- (3) FireFox を再起動してください。

Safari の場合

- (1) [環境設定]を開いて、[プライバシー]→[すべての Web サイトデータと削除]の[詳細]ボタンをクリックしてください。
- (2) Web サイトリスト画面で FreeFlow Core サーバーを選択し、[削除]ボタンをクリックしてください。
- (3) [完了]ボタンをクリックして、FreeFlow Core に再接続してください。

- **大文字/小文字が異なる同名のログインユーザーについて**

ログインユーザーとして大文字/小文字が異なる同名のユーザー(“Xerox”と“xerox”)は同じユーザーとして管理するように変更されました。

- **インストールドライブを変更しても一部の設定ファイルが C ドライブにインストールされる**

[ワークフローデータのコピー先]フォルダーはデフォルトで"C:\¥Xerox¥FreeFlow¥Core"が指定されていますが、インストール先を"D:\¥Xerox¥FreeFlow¥Core"に変更した場合、ワークフローデータやプリセット情報等は D ドライブに指定したパスにインストールされますが、一部の設定ファイルは"C:\¥Xerox¥FreeFlow¥Core¥I2S¥Data"にインストールされます。

- **グループジョブ内のジョブ数表示は実際と異なる**

ジョブステータスでのグループジョブ内のジョブ数表示は実際のジョブ数と異なり、グループジョブのうちジョブステータスの 1 ページ内に表示しているジョブ数を表示しています。

- **データベースに不要レコードが残り空き容量不足となる場合がある**

データベースの空き容量が少なくなると、以下の警告メッセージが表示されます。

- ・警告:データベース空き容量が少なくなっています。空き容量は 20% 以下です。
- ・警告:データベース空き容量が非常に少なくなっています。空き容量は 5% 以下です。

【注記】 空き容量の値はデータベースの空き容量に応じて変動します。

これらの警告メッセージが表示された場合は、完了ジョブ/エラージョブ/取り消しジョブ を削除してください。ジョブを削除したにも関わらず、警告メッセージが表示され続ける場合は弊社担当者までご連絡ください。警告メッセージが表示されたまま FreeFlow Core を使用し続けるとアプリケーションが正常に起動しなくなる場合があります。

- **外字エディターで登録した外字をウォーターマークプリセットのテキストに入力することができない。**

FreeFlow Core では、外字エディターで作成した外字は利用できません。

- **【エラージョブ】タブではグループジョブを【すべてのジョブを削除】で削除できない**

ジョブステータスの【エラージョブ】タブに表示されているグループジョブ(エラー以外のジョブステータスの子ジョブを含む)を【すべてのジョブを削除】で削除することはできません。該当するグループジョブを選択して【削除】で削除を実施してください。

- **Core Reports で大量ジョブの表示に時間がかかる**

大量ジョブ処理後に Core Reports でジョブを収集すると、ジョブのリスト表示に時間がかかることがあります。

- **同一の管理者ユーザーが別のブラウザから同時にログインすると、以前の編集内容は破棄される**

FreeFlow Core へ同一の管理者ユーザーが複数のブラウザから接続すると、最後にログインしたブラウザでの操作が有効となり、それ以前にログインしていたブラウザでの操作は破棄されて、ログイン画面に遷移します。

- **FreeFlow Core インストール PC におけるスリープ/休止に関する注意喚起**

FreeFlow Core をインストールした PC にて、スリープや休止状態に遷移すると、バックグラウンドで実行しているプリンターやジョブのステータス確認処理が停止してしまい、以下の Proweb で報告されているような問題が発生する可能性があります。

FreeFlow Core は Web サーバーアプリケーションとして稼動するため、インストールしている PC (クライアント OS も含む) に対しては、電源オプションでの「コンピューターをスリープ状態にする」設定や、手動による PC スリープ/休止は実行しないようお願いします。

PC の停止が必要な場合は、スリープ/休止ではなく、必ず「シャットダウン」で停止するようお願いします。

- **FreeFlow Core 設置環境における Windows Update の推奨設定**

FreeFlow Core でジョブの処理中に Windows Update が実行されると、アップデート処理に伴って意図せずファイルが更新されたり、Windows Update 後に意図せず再起動されたりすることで、FreeFlow Core のデータベースの破損などの障害が発生する恐れがあります。

このような事態を避けるため、セキュリティアップデートの実施については、自動更新と自動再起動の設定を無効とし、FreeFlow Core で処理が行われていない状態で実施するようにしてください。

- **FreeFlow Core のインストール環境で、Windows Server 2019 へのイン プレース アップグレードは実施しないでください**

FreeFlow Core のインストール環境で、Windows Server 2019 へのイン プレース アップグレードを実施すると、その後 FreeFlow Core のバージョンアップが実施できなくなる場合があります。Windows Server 2019 へのアップグレードを行う場合は、あらかじめ FreeFlow Core のアンインストールを実施してください。

- **[Xerox E-mail を使用]オプションが機能しない**

メール通知設定で[Xerox E-mail を使用]オプションはご利用になれません。

- **ログインの失敗回数が上限に達すると、以降は有効なドメイン資格情報を使用しても FreeFlow Core にログインできない**

Active Directory のドメインユーザーが FreeFlow Core にログインする際、パスワードを 3 回間違えると、以降はパスワードが正しくても、ログインエラーとなります。

この場合、Active Directory のセッションタイムアウト時間(標準では 30 分)が経過するのを待ってから、再度お試しください。

- **Core CLI のコマンドに対して、メッセージは英語のみである**

CLI コマンドより、FreeFlow Core へジョブを送信する場合、返される情報は常に英語です。

- **ワークフロー/ホットフォルダー検索機能は 2 バイト文字の検索をサポートしない**

ワークフロー/ホットフォルダー検索機能は、1 バイト文字でのみ検索できます。

- **サーバーなしモデルのプリンターに FreeFlow からジョブを送信するときは、必ず「FreeFlow ポートステータス」を有効にしてください**

サーバーなしモデルのプリンターに FreeFlow からジョブを送信するときは、必ず プロパティ>ネットワーク設定>プロトコル設定>FreeFlow>FreeFlow ポートステータス を「有効」にしてください。

「無効」でもジョブ送信が可能な場合がありますが、サポート対象外です。

- **プレビュー更新プログラムはインストール非推奨**

Windows Update を実行する際、プレビュー更新プログラムはインストールしないでください。これらは FreeFlow Core サーバーの動作に影響する可能性があります。

- **SSL は使用不可**

FreeFlow Core の画面やヘルプ、セキュリティガイド などに「SSL」の表記が残っていますが、SSL は廃止されたため使用しないでください。

- **FreeFlow Core をドメイン コントローラーにインストールしない**

ドメイン コントローラーは FreeFlow Core のサポート環境ではありませんので、ドメインコントローラーに FreeFlow Core をインストールしないでください。

FreeFlow Core をインストールしたサーバー機をドメイン コントローラーに移行することもお止めください。

FreeFlow Core が動作しなくなり、復旧には OS からの再インストールが必要になります。

また、Microsoft はセキュリティ上の理由から、ドメイン コントローラーには SQL Server をインストールしないことを勧めていますので、併せてご注意ください。

- **FreeFlow Core 6.2.2 以降のヘルプで、検索タブが正しく表示されない**

FreeFlow Core 6.2.2 またはそれ以降のバージョンを起動し、メニューから表示したヘルプでは[目次]タブが[Contents]と表示され、[検索]タブが[Search]と表示されますが、[Search]タブは正しく機能しません。

ヘルプを検索したい場合は、インストールメディアに同梱の PDF ファイルの FreeFlow Core ヘルプをご利用ください。

- **VIPP フォルダーが FreeFlow Core 6.2.1 以降で再配置される**

XGFC フォルダーの場所は、FreeFlow Core 6.1.3 以前は X:\xgfc ('X' は xgfc のあるドライブ)でしたが、FreeFlow Core 6.2.1 以降のアップデートインストールで C:\Program Files (x86)\Xerox\VIPP\xgfc に再配置されます。

X:\xgfc にあるファイルを C:\Program Files (x86)\Xerox\VIPP\xgfc にコピー、または C:\ProgramData\Xerox\VIPP\VINIP\vinip.ini の xgfcdir の値を書き換え、インストール後の再起動で更新されます。

そのため、VIPP のワークフローはアップデート後に改めて確認する必要があります。

- **Xerox FreeFlow Core のインストール中に SQL Server の新規インストールを選択すると、インストールに失敗する場合がある**

2 バイト文字を含むユーザー名で Windows にログインし、Xerox FreeFlow Core のインストール中に SQL Server の新規インストールを行うと、インストールしたばかりの SQL Server に接続できず、Xerox FreeFlow Core のインストールを継続できなくなります。

これは、Xerox FreeFlow Core のインストール中に新規インストールできる SQL Server が英語版であり、Windows 認証を利用して SQL Server にログインする際に、2 バイト文字を含むアカウント名ではログイン処理ができないためです。

Xerox FreeFlow Core のインストール環境に 2 バイト文字を含むユーザー名でログインする必要がある場合は、インストールガイドの「SQL Server のインストール」(P.35)の手順に従って、2 バイト文字を含むユーザー名を利用可能な日本語版の SQL Server を予めインストールしておいてください。

- **キューに設定した後処理スクリプトはプリンターが設定されていなければ動作しない**

キューに設定した後処理スクリプトはプリントジョブが完了した後に動作するものなので、キューやワークフローにプリンターが設定されていない場合は動作しません。ご注意ください。

- **サービス起動アカウントとログイン中のユーザーアカウントは「FreeFlow Core Security グル**

ープ」に入っている必要がある

Xerox FreeFlow Core 7.0.11 以降、サービス起動アカウントとログイン中のユーザーアカウントは Xerox FreeFlow Core の Windows のローカルグループに入っている必要があります。

以下の手順でユーザーをローカルグループに追加してください。

1. Windows キー + [R]を押して、「ファイル名を指定して実行」ウィンドウを開きます。
2. [名前]欄に「`lusrmgr.msc`」と入力して[OK]ボタンをクリックします。
3. 表示されたウィンドウの左ペインで「グループ」をクリックします。
4. 中央に表示されるリストから「FreeFlow Core Security」をダブルクリックします。
5. [所属するメンバー]のリストを確認します。
6. 追加したいアカウントがリストにない場合は、[追加]ボタンをクリックして「ユーザーの選択」ウィンドウを表示し、画面の指示に従ってユーザーを追加してください。
7. [OK]ボタンをクリックしてウィンドウを閉じます。
8. [OK]ボタンをクリックして FreeFlow Core Security のプロパティウィンドウを閉じます。
9. 変更を有効にするために、システムを再起動します。

6. 補足情報

障害発生時、お客様ご自身に取得いただきたい情報について

FreeFlow Core で障害が発生した場合に、実施いただきたい情報は、以下の通りです。

- ・現象発生時の情報

発生日時、発生条件(再現手順)もしくは直前に行った操作の詳細をご提供ください。

- ・現象発生が確認できるスクリーンキャプチャー

発生している現象、ジョブ ID、エラーメッセージ等が分かるスクリーンをキャプチャーした画像ファイルをご提供ください。

- ・現象発生時の設定が確認できるスクリーンキャプチャー

FreeFlow Core の設定画面、ホットフォルダーの設定画面などです。特定のプリンターや連携フォルダ、受信フォルダの処理がおかしいといった現象の場合はご取得ください。

- ・プリンター本体とプリントサーバーのログ(※プリンターのマニュアルに取得手順があった場合)

プリンターのログは量が多く、数日のうちに取得できなくなってしまう場合がありますので、必ず障害発生当日に取得したプリンター本体とプリントサーバーのログをご提供ください。

ログの取得方法については各プリンターの手順書をご確認ください。また、FreeFlow 設置環境とプリンターのシステム時間が一致していることをご確認ください。一致していない場合は、システム時間の差異も併せてお知らせください。

- ・ジョブファイル

現象が発生するジョブ(PDF、JDF、CSV 等)です。個人情報等でそのままの提供が難しい場合は、個人情報等を取り除いたデータの提供をご検討ください。

- ・FreeFlow ジョブ情報収集ツールの実行結果

製品に同梱されているジョブ情報収集ツール(GetFFLog)を実行すると、ツールを実行した環境の設定情報やログ情報を収集します。実行した結果、生成される Zip ファイルをご提供ください。

ブランド表記変更について

弊社は、富士ゼロックスブランドによる商品提供を 2023 年 3 月をもって終了いたしました。これに伴い、これまで富士ゼロックスブランドでご提供してきた FreeFlow 商品は、同商品の開発元である米国ゼロックスコーポレーション(ゼロックス社)の提供商品との位置付けに変更となり、商品のブランドもゼロックスへ変

更となりました。

ただし、日本およびアジアパシフィック地域においては、従前どおり、弊社が、お客様への商品販売および保守サービスを継続いたしますので、お客様への実質的な影響はございませんのでご安心ください。

富士フイルムビジネスイノベーション株式会社